

快速 よむへえ

取扱説明書

本書は、快速よむべえの取扱説明書です。

作成に当たっては最善を尽くしておりますが、誤りを発見したときはアメディアまでご連絡をいただければ幸いです。

音声拡大読書機「快速よむべえ」安全上のご注意

◎お使いになる前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

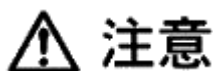
◎ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

【 警告表示 】



この表示の注意事項は、火災や感電などの大きな事故の原因をもたらさないための非常に重要な内容です。

注意事項に従っていただけない場合には、火災や感電などのけがや死亡につながる事故を誘発する恐れがございますので、くれぐれも守って頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故により、けがをしたり周囲の家財に損害を与えたりすることがあります。

【 行為禁止記号 】



禁止



分解禁止



水濡れ禁止



強制



接触禁止

PC 本体、カメラ及びスピーカーについて

以下の注意事項を守っていただけなかったときは、保証の範囲外となります。
また、備品の紛失も保証の範囲外です。

危険

・水をかけたり、濡らさないでください。

水がかかる場所(浴室や台所など)で使ったり、ジュース類等の飲み物がこぼれて内部に水が入ると、火災や感電の原因となります。
万一、水が入ったときは、すぐに電源コードをコンセントからぬき、アマディアにご相談ください。

・指定以外の電源コードはお使いにならないでください。

指定以外の電源コードをお使いになると、火災や感電の原因となり、また機器が故障します。

・指定以外の接続ケーブルはお使いにならないでください。

指定以外の接続ケーブルをお使いになると、火災や感電の原因となり、また機器が故障します。

・雷が鳴り出したら、「快速よむべえ」をいったん終了させ、コンセントを抜いて雷がおさまるのをお待ちください。

コンセントが繋がっている状態で落雷にあうと、感電の危険があります。

・電源は交流(AC)100Vをお使いください。

指定以外の電圧でお使いになると、火災や感電の原因となります。

・濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

・分解、改造しないでください。

内部に異物が入ると、故障や火災・感電の原因となります。点検や修理はアマディアにご依頼ください。

注意

・上面の通気口はふさがらないでください。

内部に熱がこもり、正常に動作しなくなります。

・落下させないでください。

高い所などから落ちた場合、破損する恐れがあります。又、破損時の破片などで、人体に傷害を与えることがありますので、ご注意ください。

・衝撃を与えないでください。

精密電子機器ですので、衝撃を与えると機能が失われることがあります。

・上から強く押ししたり、上に重いものをのせないでください。

上から圧力を加えたり、重いものをのせると破損する恐れがあります。

・日当たりのよい場所に放置しないでください。

故障の原因となります。

本機の故障や不具合などにより、発生した読み取り内容の消去など、付随的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



もくじ

第 1 章	かんたん操作で使う	7
1.1.	開始と終了	7
1.2.	印刷物を読む	8
1.3.	読み上げの停止と再開	10
1.4.	進む・戻る	10
1.5.	速度の変更	11
1.6.	現在位置を知る	11
1.7.	操作がわからなくなったとき	11
第 2 章	いろいろな印刷物を読む	12
2.1.	原稿の置き方	12
	・書類の場合	12
	・書籍の場合	12
2.2.	ページ補正をおこなう	13
2.3.	漢字の詳細読み	14
第 3 章	印刷物の保存と管理	15
3.1.	以前に読み取った内容を読む	15
	・ページの移動	15
	・文書の移動	16
3.2.	読み取った内容を削除する	17
3.3.	読み取った文書をパソコンで使用する	18
	・文書の保存形式	19
3.4.	しおりを使う	19
3.5.	特定の文書・ページに移動する	20
第 4 章	USBメモリまたはCDの内容を聴く	22
4.1.	本機の動作モードを切り換える	22
4.2.	USBモードの流れ	23
4.3.	パソコン用のデータを聴く	24
4.4.	デイジー図書を聴く	24
4.5.	CD・DVDの内容を聴く	25
4.6.	音楽CDを聴く	26
4.7.	DVDビデオを見る	26
	・DVDメニュー表示中の操作	27
	・音声・字幕の変更	27
第 5 章	拡大読書機として使う	28
5.1.	本機に画面を接続する	28
	・パソコン用の画面を接続する	28
	・快速よむべえの電源を入れる	29

	・文字の大きさを変更する	29
	・文字の配色を変更する	29
5.2.	カメラの画像を拡大表示する	30
	・拡大率を変更する	30
	・画像の色・コントラストを変更する	31
5.3.	読み取った画像を拡大表示する	31
5.4.	マルチメディアデジター図書を読む	32
第 6 章	上級者向け機能	33
6.1.	連続読み取り	33
6.2.	クラウド認識	34
	クラウド認識情報	34
6.3.	高度な文書管理	34
	・新しい文書の作成	34
	・文書に名前をつける	35
	・文書中の文字を検索する	36
	・文書中の数字列を検索する	37
	・ページの引越し	38
6.4.	本機の設定を変更する	39
	・クラウド認識	39
	・入力画像形式	40
	・認識する言語	40
	・ルビの読み上げ	40
	・電源周波数	40
	・文書の自動作成	41
	・日付と時刻の変更	41
6.5.	快速よむべえに読み上げ辞書を追加する	42
	読み上げ辞書の形式	42
	読み上げ辞書の登録手順	42
	読み上げ辞書の管理	43
第 7 章	故障かな？ と思ったら	44
	・本機の電源が入らない	44
	・内蔵スピーカーから音が出ない	44
	・本機が喋らない	44
	・画面が映らない	45
	・読み取りに失敗する	45
	・文字が読み取れない	45
	・読み取りの精度が悪い	46
	・うまく読み取れない時の対処法	47
	・本機の電源が切れない	47

付録 A. キー操作一覧	48
A-1. 音声読書機モードのキー操作	48
A-2. 拡大読書機モードのキー操作	51
A-3. USB モードのキー操作	52
付録 B. 拡張メニュー操作一覧	54
B-1. 音声・拡大読書機モードの拡張メニュー	54
B-2. USB モードの拡張メニュー	55
付録 C. 設定項目一覧	56
C-1. 音声・拡大読書機モードの設定項目	56
C-2. USB モードの設定項目	57
付録 D. 快速よむべえでサポートするファイル形式一覧	58
付録 E. 快速よむべえでサポートする携帯型デジプレイヤー	58

第 1 章 かんたん操作で使う

この章では『快速よむべえ』のもっとも基本的な使い方を説明します。

1.1. 開始と終了

『快速よむべえ』の開始と終了は、本体前面にある 電源ボタンを使います。電源ボタンを押すと約 30 秒ほどしてから音楽が流れます。電源を切るには、もう一度電源ボタンを押してください。



⚠ 注意

『快速よむべえ』の起動と終了は、かならず 電源ボタンを使っておこなってください。コンセントを直接抜き差しすると、故障の原因となります。電源ボタンは、一度だけ押せば反応します。電源ボタンを押してもすぐには電源が切れない場合がありますが、これは快速よむべえが終了処理をしている最中ですので、そのままお待ちください。

カメラについて

『快速よむべえ』のカメラには印刷物を照らす照明があります。照明は、開いたカメラの腕の先にタッチ式のボタンがあり、これを押すと点灯します。（常に消灯した状態で起動し、ボタンを押すたびに明るさが3段階に変化、4段階目で消えます）点灯すると読み取り結果が変わることがあるので、試してみるとよいかもしれません。なお、光沢のある印刷物は、照明をつけないと認識精度が上がることもあります。

音量について

内蔵スピーカーの音量を調節するには、バックスペース(BS)キー と マイナス(-)キー を使います。バックスペース(BS)キー を押しながら マイナス(-)キー を押すと音量が上がり、バックスペース(BS)キー と 取り消し(Tab)キー を同時に押しながらさらに マイナス(-)キー を押すと音量が下がります。また、本体背面のオーディオ出力端子には、イヤホン・ヘッドホン等を接続することもできます。

1.2. 印刷物を読む

快速よむべえ（以下「本機」と略します）で印刷物を読むには、まずカメラの下に印刷物を置きます。このとき、読みたい面が上向きになるように置いてください。カメラをはめる原稿ガイドの穴の場所は撮影範囲が A4 の場合と A3 の場合とで異なります。用紙を置く場合、長い辺がカメラの足元へ向くように置きます。

- 開いたカメラの腕の先端に LED ライトのスイッチがあります。周囲の環境や印刷物の紙質によって LED ライトのオン/オフは認識結果に影響を与えることがあります。
- カメラの支柱の高さを変えると撮影範囲が変わります。撮影範囲は支柱の最も低いところで A4 サイズ、最も高いところで A3 サイズになります。支柱は上の部分を手で引っ張ると高くなります。



- A4 の場合は原稿ガイドの穴の奥のところにカメラをはめます。
- A3 の場合は原稿ガイドの穴の手前のところにカメラをはめます。



● 一体モデルの場合


原稿の端を原稿ガイドの隅に合わせるように置きます。



● 読み上げモデル・拡大モデルの場合

原稿の端を原稿ガイドの隅に合わせるように置きます。



 キー説明

印刷物を読み上げるには、一番右の手前にある 読み取り(Enter)キー(縦長のキー)を2回ポン・ポンと押します。

撮影音が鳴り、しばらくすると内容を読み上げます。

 ワンポイント

本機では、いくつかの操作はキーをポン・ポンと2回押してから はじめて動作する仕組みになっています。これは、どのキーにどの操作が対応しているか わからないときに、目的のキーを手さぐりで探しだすためのものです。

まずキーを1回押すと、そのキーに対応する操作の説明をします。

この後、もう一度同じキーを押すと、実際の操作が実行されます。

1回目のキーを押したあとに、何もせずしばらくそのまましていると、この操作は取り消されたことになり、取り消し音がなります。

このように、本機ではキーを押したあとに必ずその操作の説明をします。キーを押したために異常な動作をすることはありませんので、遠慮なくいろいろなキーを押して位置を確認してみてください。

1.3. 読み上げの停止と再開

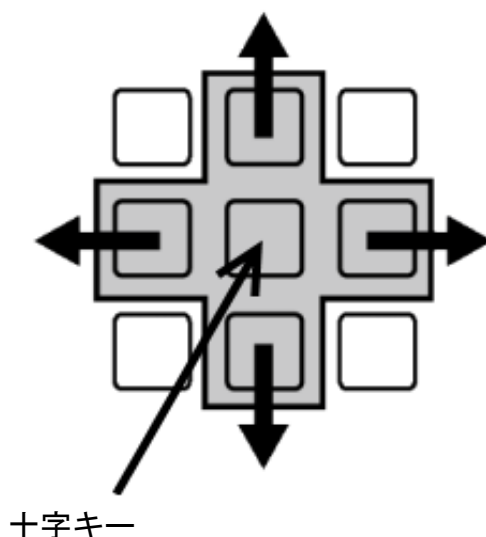
本機は、読み取った印刷物の内容をどんどん読み上げていきます。ページの最後に到達すると、読み上げは自動的に停止します。

キー説明

途中で読み上げを止めるには、真ん中の 停止・再開(5)キーを押します。このキーは1回押すだけで動作します。もう一度押すと、停止した位置から読み上げを再開します。

1.4. 進む・戻る

停止・再開(5)キーを中心として、上下左右の位置に 十字キーが配置されています。本機では、読み上げ位置の移動はすべてこの4つのキーでおこないます。



キー説明

現在読み上げている部分から少し戻るには、左キーを押します。現在読み上げている部分から少し進めるには、右キーを押します。上キーと下キーは、これよりももう少し大きい幅で進んだり戻ったりします。

印刷物の場合、左右のキーは文節単位の移動になり、上下のキーは文単位の移動になります。

これらのキーは本機の他の操作でも使いますので、「少し進むときは右、少し戻るときは左、ある程度大きく戻るときは上、ある程度大きく進むときは下」というように覚えてください。上キーと下キーはメニュー項目に移動にも使います。

1.5. 速度の変更

マイナス(-)キーを使うと、読み上げ音声の速さを変えることができます。



キー説明

読み上げを速くするには、マイナス(-)キーを1回押します。キーを押すたびに、読み上げ速度が少しずつ上がっていきます。読み上げの速度には10段階あり、いちばん速い状態までいくと、次はゆっくりした速さに戻ります。

なお、本機の標準では「速さ3」になっています。

1.6. 現在位置を知る

現在の本機の状態を知るには プラス(+)キーを使います。



キー説明

プラス(+)キーを1回押すと、本機は現在読み上げているページ番号と総ページ数、ページ中の読み上げ位置を報告します。

1.7. 操作がわからなくなったとき

本機の操作パネルの左上には 取り消し(Tab)キーがあります。このキーは本機の操作を取り消すのによく使いますので、覚えておくとよいでしょう。



キー説明

操作がわからなくなった場合は、取り消し(Tab)キーを押します。このキーを押すと、本機は現在の動作を中止し、操作前の状態に戻ります。



ワンポイント

本機の状態がどうしても元に戻らない場合は、一度電源を切ってから、もう一度電源を入れてください。本機は読み取った印刷物をすべて記憶しているため、電源を切っても読み取った内容が消えることはありません。

第2章 いろいろな印刷物を読む

この章では、本機を使っていろいろな印刷物を読む方法を説明します。

2.1. 原稿の置き方

印刷物によっては、原稿の置き方だけで読み取りの精度を上げることができます。うまく読ませるためには、まず以下の基本をマスターしておくといでしょう。



原稿の置き方のコツ

- 原稿をカメラの下に合わせるように置く。
- 原稿が浮き上がらないように、折れ目などを延ばしてから置く。
- 原稿の周囲に余計な物を置かない。

つぎに、各種印刷物を読ませる際の注意点を説明します。

書類の場合

A4の紙に書かれた書類は、本機がもっとも得意とする印刷物のひとつです。そのため、読み取り精度は通常きわめて高く、読み取った内容をそのまま聴けば内容を理解できます。

書籍の場合

小説などの書籍は、薄いものであれば読み取り精度が高いのですが、通常の書籍ですとページが平坦にならないため、誤認識が起こる場合があります。また、図表や数式が入っている教科書や専門用語の多い書籍などは平らなものでも一部、正しく読まない部分もあります。

書籍を読ませる場合は、1ページずつめくって読み取ります。本機は原稿の向きを自動的に認識しますので、縦書き・横書きの文章にかかわらず正しく読み上げることができます。

- 原稿ガイドが付属する製品の場合

- 一体モデルの場合



文庫本や四六判程度の本であれば、見開きで2ページを一度に読み取ることもできます。この場合、書籍のページをなるべく平らにした状態で読み取りをおこなってください。

ワンポイント

数十ページ以上の書籍を一度に読み取りたい場合は、「6.1.連続読み取り」(p.33)で説明する連続読み取り機能を使うと便利です。

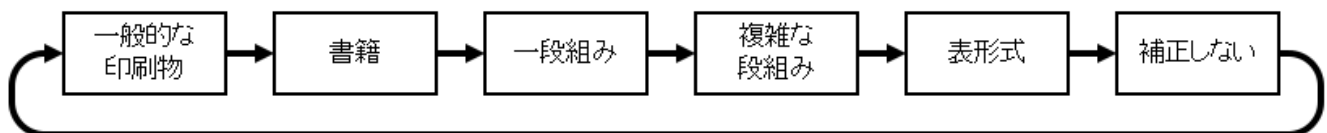
2.2. ページ補正をおこなう

本機では、通常存在するあらゆる印刷物にまんべんなく対応できるような方法で読み上げをおこないますが、印刷物によっては、この読み上げがわかりにくい場合があります。このような場合、本機では特定の方法で『ページ補正』をおこなうことによって、そのページをよりわかりやすい方法で読み上げることができます。

キー説明

いま読んでいるページの補正方法を変更するには、操作パネルの右上端にある バックスペース(BS)キーを押しながら プラス(+)キーを押します。

このキーを押すたびに、ページ補正の方法が「一般的な印刷物」→「書籍」→「一段組み」→「複雑な段組み」→「表形式」→「補正しない」の順に変わっていきます。決定したいところで読み取り(Enter)キーを押すと、補正方法が決定され、現在のページがその方法に補正されて読み上げられるようになります。



ページ補正の方法には、以下のものがあります：

- 一般的な印刷物 ... 本機の通常の方式です。印刷物の種類にかかわらず、本機が自然と認識した順序で読み上げをおこないます。
- 書籍 ... 小説など、文章が中心の印刷物を読むときに使います。本機は各ページに書かれているページ番号や見出し部分を省いて読み上げます。
- 一段組み ... メニューなどの箇条書きや詩集など、一段組で書かれた文書に適しています。
- 複雑な段組み ... 新聞など、段組みが複雑な印刷物を分析して読み上げます。
- 表形式 ... 数字が多く書かれているものや、表形式のものを読むときに使います。
- 補正しない ... いっさいのページ補正をおこなわず、生の認識結果をそのまま読み上げます。

ワンポイント

あるページ補正方法でうまく読まない場合は、別のページ補正に切り換えてみてください。

注意

ページ補正を「複雑な段組み」にした場合は、読み上げまでに時間がかかる場合があります。故障ではありませんので、そのまま読み上げが始まるまでお待ちください。

2.3. 漢字の詳細読み

本機はときどき漢字を間違えて読むことがあります。また、同じ読みをもつ異なる漢字からなる単語で、音声で読んだだけでは区別できない単語もあります(たとえば「公海」「黄海」「紅海」など)。

このような場合、本機では漢字の『**詳細読み**』という操作を使って、漢字を1文字ずつ細かく読み上げることができます。

キー説明

漢字の詳細読みをおこなうには、取り消し(Tab)キーを押しながら 左キーまたは 右キーを押します。

漢字の詳細読みをおこなう場合、本機は通常の文よりもさらに細かい単位で移動します。本機は現在読み上げている文字の位置を覚えており、この後、続けて 取り消し(Tab)キーを押しながら 左キーを押すとひとつ前の文字を、右キーを押すとひとつ次の文字を読み上げていきます。



詳細読みをやめるには、上キーまたは 下キー、あるいは 停止・再開(5)キーを押すと、通常の文を読み上げる状態に戻ります。

第3章 印刷物の保存と管理

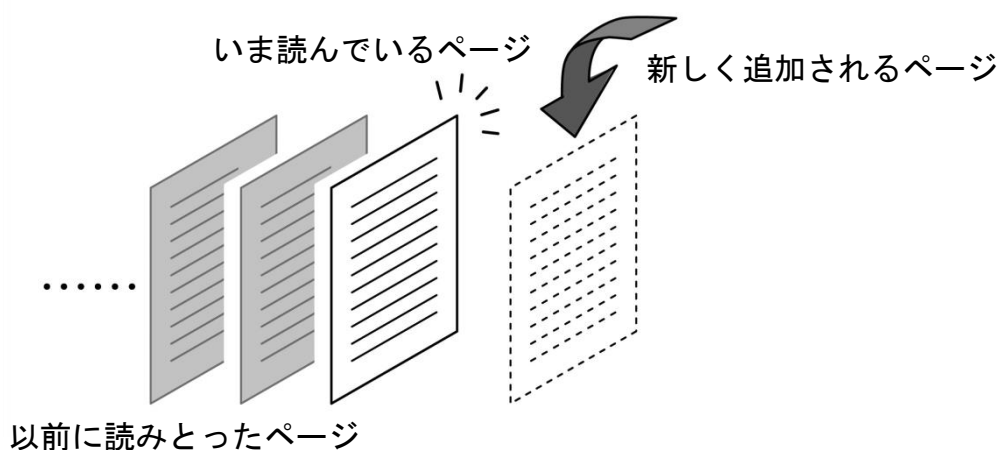
この章では、読み取った印刷物を活用するいろいろな方法を説明します。

3.1. 以前に読み取った内容を読む

ページの移動

本機では、1回の読み取り操作で取得した印刷物の内容はすべて『ページ』という単位で保存されています。毎回、読み取りをおこなうたびに、新しいページが追加されます。

前に読み取った内容をふたたび聴きたい場合には、『ページの移動』という操作をおこないます。こうすることにより、本機が現在読んでいるページを切り換えることができます。



□ キー説明

ひとつ前のページを読み上げるには、パネル中央右上にある ページアップ(PageUP) キーを押します。

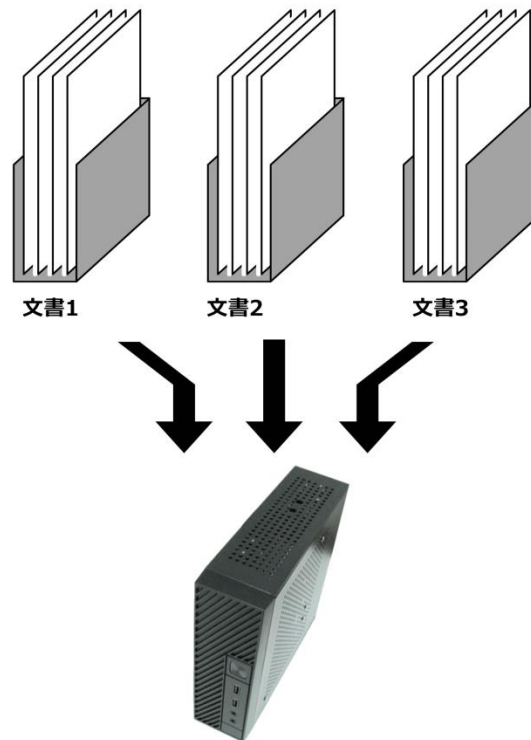
ひとつ次のページを読み上げるには、パネル中央右下にある ページダウン(PageDown) キーを押します。

⚠ 注意

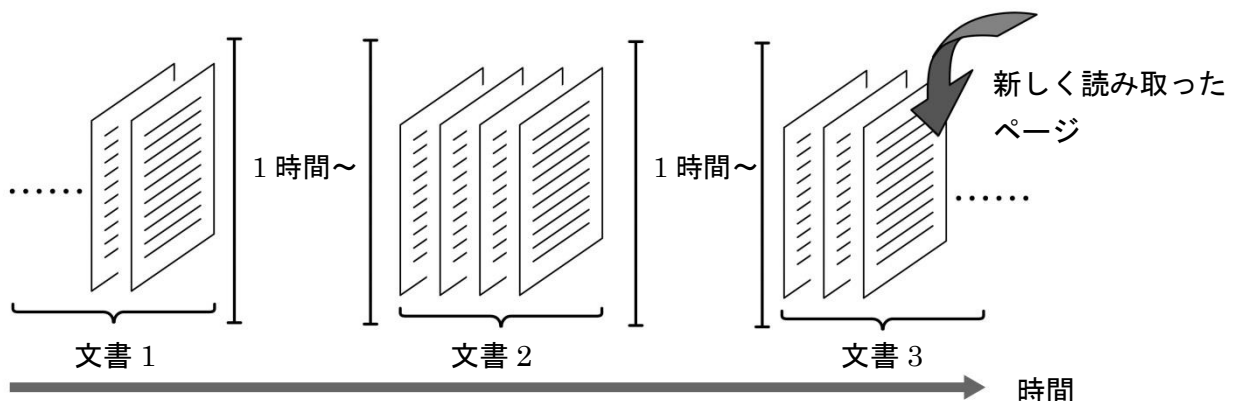
『ページの移動』は、現在の文書(後述)内のページにのみ移動します。別の文書に入っているページを読み上げるには、次で説明する『文書の移動』をおこなってください。

文書の移動

本機は、それまでに読み取った印刷物の内容（ページ）をすべて保存しています。これらはあとからもう一度読み上げることができるようになっていますが、保存されるページの数が増えてくるとわかりにくくなってきます。このため、本機では各ページを『文書』というまとまりに分けてあります。文書は、ページの束のようなものと考えてください。各文書は番号がつけられており「文書○○」のように呼ばれます。たとえばある日の午前中に本機を起動し、5枚（5ページ分）のチラシを読み取り、午後にはまた別の5枚のチラシを読み取ったとすると、本機にはこの5ページごとにふたつの文書が記録されます。このように、ある時間内に読み取った印刷物の束をまとめておくことで、あとからこれらの内容をひとつの「まとまり」として読み上げることができます。



本機は、前の読み取りから1時間以上が経過すると自動的に「新しい文書を作成します」とアナウンスします。このとき新しい文書が作成され、以後、読み取ったページはこの文書に格納されます。またしばらく読み取りをせずに1時間以上が経過すると新しい文書が作られるという仕組みです。



ワンポイント

この1時間という時間は変更することが可能です。「文書の自動作成」(p.40)を参照してください。また、時間以外の方法で文書を分けることもできます。詳しくは「新しい文書の作成」(p.34)を参照してください。

現在開かれている文書内のページは、前述のページの移動を使って読み上げることができます。しかし、前の日に読み取った文書のページを読み上げることはできません。別の文書のページを読み上げるには、現在の文書を閉じて別の文書を開く必要があります。これを『**文書の移動**』と呼びます。たとえば「文書 5」が開かれている状態で、ひとつ前の文書に移動すると、「文書 5」が閉じられ、「文書 4」が開かれます。この後、「文書 4」の内容を読み上げたり、この文書に対してさらにページを追加したりすることができます。



キー説明

ひとつ前の文書に移動するには、取り消し(Tab)キーを押しながら ページアップ(PageUP)キーを押します。

ひとつ次の文書に移動するには、取り消し(Tab)キーを押しながら ページダウン(PageDown)キーを押します。



注意

本機では、新しく読み取ったページは、現在開いている文書の末尾に追加されます。別の文書に移動してからページを読み取った場合、そのページは現在開かれている文書に追加されますので注意してください。

3.2. 読み取った内容を削除する

本機内部には大量の情報を保持することができますので、通常は読み取ったページを消す必要はありません。しかし、そのページがとくに必要ない場合は『**ページの削除**』という操作をおこなうと読み取った内容を削除することができます。



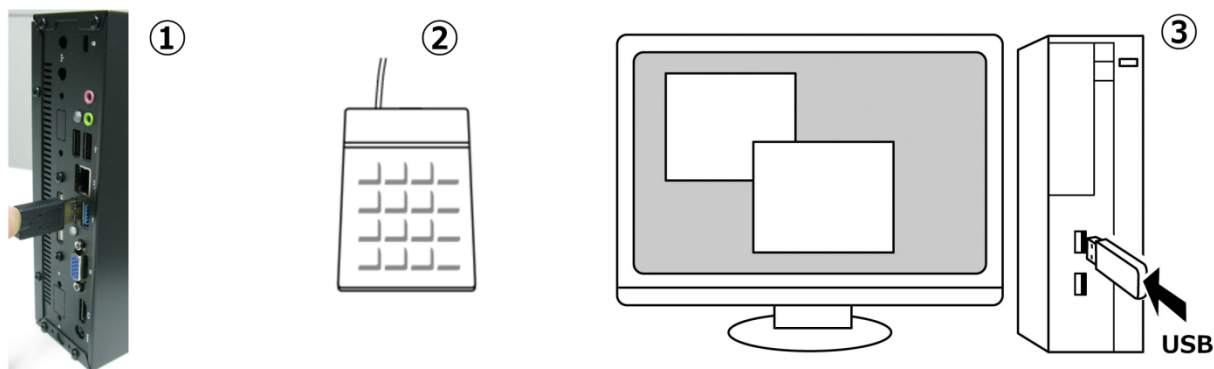
キー説明

現在読んでいるページを削除するには、バックスペース(BS)キーを押しながら ページアップ(PageUP)キーを2回押します。1回押すと「**ページ削除**」とアナウンスされ、2回押した時点で本当の削除がおこなわれます。

ページを削除したあとは、前のページが表示されます。その文書にページがひとつもなくなった場合は「**ページがありません**」とアナウンスされます。

3.3. 読み取った文書をパソコンで使用する

パソコンをお持ちの方は、本機で読み取った印刷物の内容をパソコン上で使用することができます。この操作をおこなうには、市販の『USBメモリ』が必要です。まず、USBメモリを本機の『USBポート』に差し込み、『文書の保存』という操作を実行します。その後、USBメモリをパソコンに差し込むと、本機で保存した内容を『テキスト形式』や『CSV形式』などのファイルとして「メモ帳」などのアプリケーションで開くことができます。



① USBメモリをUSBポートに差し込む

② 拡張メニューから“文書の保存”を選択

③ USBメモリをパソコンのUSBポートに差し込む

文書の保存をおこなうには、『拡張メニュー』という機能を使います。本機では、あまり頻繁におこなわない操作は拡張メニューを呼び出して実行します。

キー説明

拡張メニューを呼び出すには、取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの左隣りにある ピリオド(.)キーを2回押します。

「拡張メニュー」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで下キーを数回押すと「文書の保存」とアナウンスしますので、この状態で 停止・再開(5)キーを押します。

この後、保存する文書名とともに「保存形式を指定してください」とアナウンスされますので、保存したいファイル形式を上下のキーで選択し、停止・再開(5)キーを押してください。

ワンポイント

拡張メニューには、通常あまり使われない操作の一覧がまとめられています。本章で触れられている以外の機能に関しては、「第6章 上級者向け機能」(p.33)および「付録B 拡張メニュー操作一覧」(p.51)を参照してください。

注意

パソコン上でファイルを音声で読み上げるには、別途ソフトウェアが必要です。

文書の保存形式

文書を USB メモリに保存する際に使用できる形式には、以下のものがあります。

- **テキスト形式** ... 文書をひとつのテキストファイル (.txt) として保存します。各ページはページ区切り文字によって分けられます。
- **CSV 形式** ... 文書を CSV 形式のファイル (.csv) として保存します。表などの認識結果を保存する際に便利です。
- **エクセル形式** ... 文書をエクセル形式のファイル (.xlsx) として保存します。複数のページは、別々のシートとして保存されます。
- **デージー形式** ... 文書をひとつのデージー図書として保存します。この場合、ひとつのフォルダ内にデージー図書の関連ファイルが保存されます。
- **HTML 形式** ... 文書をひとつの HTML ファイル (.htm) として保存します。ファイルの先頭には、各ページの先頭にジャンプするためのリンクがつけられます。
- **MP3 形式** ... 文書を MP3 音声ファイル (.mp3) として保存します。この場合、各ページがすべてつながった、ひとつの音声ファイルになります。

⚠ 注意

保存形式として「デージー形式」または「MP3 形式」を指定した場合、現在の設定にかかわらず、つねにデフォルトの音声を読み上げに使われます。

3.4. しおりを使う

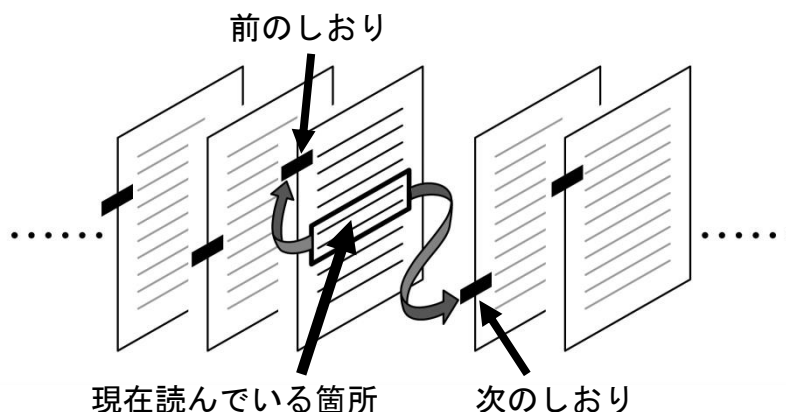
重要な印刷物を読み取ったときや、文書の中のある部分をあとから何度も読みたいときは、『しおり』というものを使います。

本機では、ページにしおりをつけておくと、あとからその箇所へ簡単にジャンプできます。

📄 キー説明

現在読んでいる箇所にしおりをつけるには、**スラッシュ(/)キー**を 2 回押します。

しおりはひとつの文書につき何箇所でもつけることができ、その位置は電源を切った後も保存されません。文書中のどこにいても、しおりのついた箇所には瞬時にジャンプできます。



キー説明

しおりのついた箇所へジャンプするには、ホーム(Home)キーまたは エンド(End)キーを使います。

ホーム(Home)キーを2回押すと、現在読んでいる箇所よりも前にあるしおりにジャンプします。エンド(End)キーを2回押すと、現在読んでいる箇所よりも後にあるしおりにジャンプします。

ワンポイント

本機のしおりは、通常の書籍と違って、各ページではなく、個々の文につけることができます。そのため、ひとつのページに複数のしおりをつけることも可能です。

すでにしおりのついている箇所でもういちど スラッシュ(/)キーを押すと、そのしおりは削除されます。

3.5. 特定の文書・ページに移動する

本機を長く使っていくうちに、多くの文書が本機内部に蓄積されています。「前の文書」「次の文書」の操作を使って、これらの文書をひとつずつ戻っていくのは大変です。ここでは、過去に読み取った文書から自分が読みたい文書を探しだすための機能を説明します。

キー説明

文書選択をおこなうには、プラス(+)キーを2秒ほど押しつづけます。

「**文書一覧メニュー**」というアナウンスのあと、文書が選択できる状態になります。

文書選択をしている状態では、上下のキーを使ってひとつ前の文書、ひとつ後の文書を選択します。各文書に対して、文書名がアナウンスされます。

移動したい文書が決まったら、そこで 停止・再開(5)キーを押すとその文書に移動します。

また、ひとつの文書内に多くのページがあるときは、特定のページ番号を指定して移動できる機能が用意されています。この操作は、拡張メニューを使っておこないます。



キー説明

ページ指定移動をおこなうには、まず拡張メニューを呼び出します。取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの左隣りにある ピリオド(.)キーを2回押します。

「拡張メニュー」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで 下キーを数回押すと「ページ指定移動」とアナウンスしますので、この状態で 停止・再開(5)キーを押します。

この後、ページ番号が入力できる状態になります。ここでは、本機のテンキーを通常の数値キーと同じように使って ページ番号を入力します。ページ番号を入力したら、読み取り(Enter)キーを押すと そのページに移動します。



注意

本機のテンキーに書かれている数字は、通常の電話機の番号とは上下の位置が逆なので注意してください。

本機では、左手前隅がゼロ(0)キーで、その上の列が 1,2,3、その上の列が 4,5,6 ... という順序になっています。

第 4 章 USB メモリまたは CD の内容を聴く

この章では、USB メモリの内容を本機で聴くための方法を説明します。

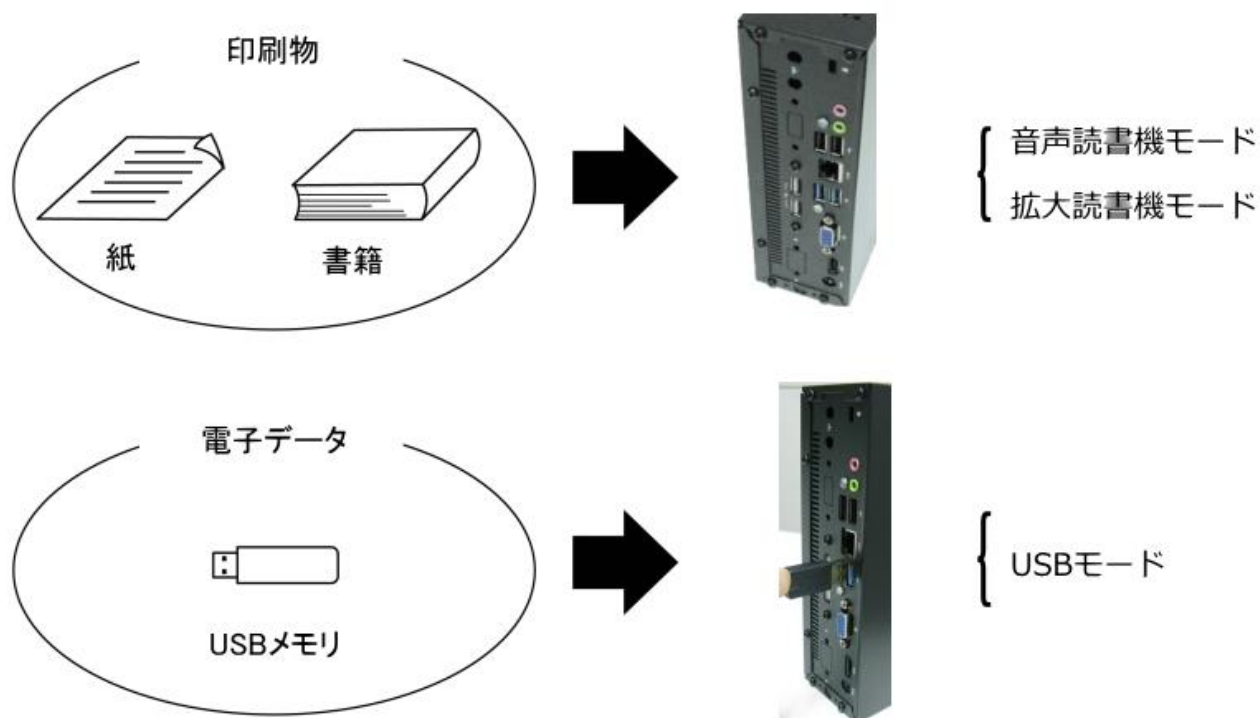
オプションの CD・DVD ドライブ(別売)を装着している場合は、CD の内容を聴くこともできます。

4.1. 本機の動作モードを切り換える

本機には 3 種類の『動作モード』があります。それぞれ、『音声読書機モード』『拡大読書機モード』および『USB モード』です。本機では、必要に応じてこれらのモードを切り換えて使用します。

通常、電源投入時は「音声読書機モード」になっています。カメラで読み取った印刷物を読み上げる場合は、「音声読書機モード」または「拡大読書機モード」を使います。

いっぽう USB メモリに格納された電子データを再生する場合は、「USB モード」を使います。



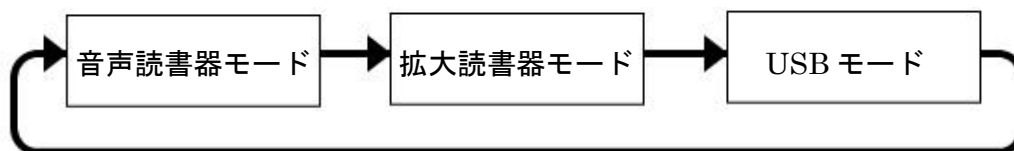
本機は、電源投入時には「音声読書機モード」または「拡大読書機モード」のどちらかになっています。

USB メモリの内容を本機で聴く場合は、まず本機を「USB モード」に切り換える必要があります。

□ キー説明

現在のモードを切り換えるには、読み取り(Enter)キーの左隣にある ピリオド(.)キーを押します。

このキーを押すたびに、本機は「音声読書機モード」→「拡大読書機モード」→「USBモード」という順序でモード名を読み上げていきます。目的のモード名に合わせて 読み取り(Enter)キーを押すと、その動作モードに切り換わります。



4.2. USB モードの流れ

USBモードでは、本機は挿入された USB メモリの種類を自動的に判別します。現在、本機が対応している USB メモリの種類は以下のとおりです。

- デイジー図書
- パソコン用データ

☞ ワンポイント

一部の携帯型デイジープレイヤーは、本機で USB メモリとして認識できます。この場合、その携帯型デイジープレイヤーを本機に接続すると、その中に格納されているデイジー図書を再生することができます。

本機が対応している携帯型デイジープレイヤーの一覧については、「付録 E. 快速よむべえでサポートする携帯型デイジープレイヤー一覧」(p.58) をご覧ください。

USBモードでは、挿入した USB メモリの 内容によって操作方法が若干変わりますが、基本的な流れはおおむね次のようになっています。

1. まず、本機に USB メモリを挿入し、USBモードに切り換えます。
2. 上キーと 下キーを使って、聴きたい文書またはデイジー図書を選択し、停止・再開(5)キーで決定します。
3. 十字キー (上下左右キー)と 停止・再開(5)キーを使って、曲または文書の聴きたい箇所に移動します。
4. プラス(+)キーを 2 秒ほど押しつづけると、再生が停止し、文書または図書の選択状態に戻ります。
5. 再生が終わったら、本機から USB メモリを取り出します。

4.3. パソコン用のデータを聴く

本機の USB モードは、パソコン用のデータも再生することができます。パソコンのデータにはさまざまな形式がありますが、本機は USB メモリに入っている内容を認識し、そのデータに合った再生方法を自動的に選択しますので、どんなデータでも ほぼ同じ操作で再生することができます。現在、本機でサポートされているパソコンのファイル形式については、「付録 D. 快速よむべえでサポートするファイル形式一覧」(p.58) を参照してください。

パソコン用のデータが入った USB メモリが本機に挿入されると、本機は「一般的なデータ」とアナウンスします。この後、USB メモリに格納されているファイルの中から、再生するファイルを選択します。



キー説明

再生するファイルを選択するには、上キーと 下キーを使います。停止・再開(5)キーを押すとそのファイルの再生を開始します。

ファイルの再生中は、以下のキーで再生箇所を移動することができます。

- ページアップ(PageUP)キー / ページダウン(PageDown)キー … 前のページへ戻る / 次のページへ進む。
- 上キー / 下キー … 前の見出しへ戻る / 次の見出しへ進む。
- 右キー / 左キー … 次のフレーズへ進む / 前のフレーズへ戻る。
- 停止・再開(5)キー … 再生を停止、あるいは再開する。

ファイルの再生をやめるには、プラス(+)キーを長押ししてファイルの選択状態に戻ります。



ワンポイント

画像ファイル中に文字が描かれている場合、本機はその文字を認識して音声で読み上げます。

4.4. デイジー図書を聴く

『**デイジー図書**』とは、点字図書館などで貸し出されている録音図書です。

デイジー図書が本機に挿入されると、本機はまず「**デイジー図書です**」とアナウンスします。複数のデイジー図書が入っている USB の場合、ここで聴きたい図書を選択します。デイジー図書が 1 つしか入っていない USB メモリの場合、本機は自動的に図書の再生を開始します。



キー説明

複数のデイジー図書がある場合、上キーと 下キーを使って 再生したい図書を選択し、停止・再開(5)キーで決定します。

ワンポイント

以前に本機で再生したことのあるデジータ図書をふたたび挿入すると、本機は前回止めた場所から再生を続行します。

デジータ図書の再生中は、以下のキーで再生している箇所を移動することができます。

- 上キー / 下キー … 前の見出しへ戻る / 次の見出しへ進む。
- 右キー / 左キー … 次のフレーズへ進む / 前のフレーズへ戻る。
- 停止・再開(5)キー … 再生を停止、あるいは再開する。

デジータ図書の再生をやめるには、プラス(+)キーを使います。

キー説明

現在の図書の再生を中止し、別の図書を選択するには、プラス(+)キーを 2 秒ほど押しつづけます。再生が停止し、図書の選択状態に戻ります。

4.5. CD・DVD の内容を聴く

オプションの CD・DVD ドライブ(別売)を装着している場合は、CD・DVD の内容を聴くこともできます。

CD・DVD ドライブを装着している場合、「音声読書機モード」「拡大読書機モード」「USB モード」に加えて、『CD モード』が動作モードとして使用可能になります。

「4.1. 本機の動作モードを切り換える」(p.22) の方法を使って動作モードを「CD モード」に切り換えると、CD・DVD に格納された電子データを再生します。CD モードの操作方法は USB モードの操作方法と同じです。

ワンポイント

CD・DVD ドライブを装着している場合、CD または DVD をトレイに挿入すると、本機は何もキーを操作しなくても自動的に「CD モード」に切りかわります。

ワンポイント

CD・DVD を再生している時でも、読み取り(Enter)キーを 2 回押すと、本機は音声読書器モードに戻り、印刷物の読み取りを開始します。

注意

CD モードを利用するには、本機の電源投入時に CD・DVD ドライブが接続されている必要があります。すでに電源が入っている場合は、いったん本機の電源を切って CD・DVD ドライブを接続し、再度起動してください。

4.6. 音楽 CD を聴く

CD・DVDドライブを装着している場合、音楽 CD が挿入されると、本機は「音楽 CD です」とアナウンスします。この後、曲の数と合計時間がアナウンスされ、自動的に再生が始まります。

ワンポイント

以前に本機で再生したことのある音楽 CD をふたたび挿入すると、本機は前回止めた場所から再生を続行します。

音楽 CD の再生中は、以下のキーで再生している箇所を移動することができます。

- 上キー / 下キー … 前の曲へ戻る／次の曲へ進む。
- 右キー / 左キー … 早送り／巻き戻し。(押している間のみ)
- 停止・再開(5)キー … 再生を停止、あるいは再開する。

音楽 CD の再生をやめるには、CD・DVDドライブの 取り出しボタンを押して CD を取り出します。

4.7. DVD ビデオを見る

CD・DVDドライブを装着している場合、DVD ビデオが挿入されると、本機は「DVD ビデオです」とアナウンスし、自動的に再生を開始します。

注意

DVD 再生時には、必ず本機に画面を接続する必要があります。画面の接続方法については「5.1. 本機に画面を接続する」(p.28) をご覧ください。

注意

装着している DVD ドライブのリージョン設定に対応した DVD ビデオのみ再生できます。また、テレビ番組を録画した DVD (DVD-VR) は再生できません。

DVD ビデオに収められた映画は、通常『タイトル (題目)』と呼ばれる大きな区切りに分けられています。各タイトルには、さらにいくつかの『チャプター (章)』と呼ばれる区切りが ついている場合もあります。DVD の再生中は、以下のキーで再生している箇所を移動することができます。

- 上キー / 下キー … 前のチャプターへ戻る／次のチャプターへ進む。
- 右キー / 左キー … 早送り／巻き戻し。(押している間のみ)
- 停止・再開(5)キー … 再生中は再生を停止、あるいは再開する。
- プラス(+)キー (長押し) … DVD メニューを表示する。



ワンポイント

本機に画面を接続している場合、画面に DVD の映像が表示されます。
DVD の再生画面を拡大表示することはできません。

DVD メニュー表示中の操作

DVD には通常『DVD メニュー』が含まれています。DVD メニューはいくつかの「ボタン」からなっており、一般に市販されている DVD ソフトの多くは、各ボタンを選ぶことで再生箇所を選択や音声・字幕の切り換えをおこないます。

本機では、DVD メニューのボタン操作をテンキーを使って 音声でおこなえるようになっています。

DVD のメニューが表示されると、本機はまず「メニュー」とアナウンスします。

この後、ボタンの個数がアナウンスされ、現在選択されているボタンの番号が「1」「2」のような数値で読み上げられます。ここでは、以下のキーを使って ボタンを選択できます：

- 上キー / 下キー ... 次のボタンへ移動する / 前のボタンへ移動する。
- 停止・再開(5)キー ... 現在選択中のボタンを確定する。

ボタンを選択すると、それに対応した特定の機能が実行されます。これらはタイトル中の特定の箇所から再生を開始したり、現在のニヶ国語音声や字幕を切り換えるといったものです。

あるボタンを選択した結果、さらに別のメニューが現れることもあります。



注意

DVD メニューの内容はコンテンツの製作者によって異なっており、ボタンの順番や機能など、ソフトによってかなりの差があります。本機では DVD メニューのボタンの内容を音声で読み上げることはできないため、個々のボタンがどのような機能に対応しているかを知ることができません。

各 DVD ソフトのメニューの使い方は、DVD ソフト製作メーカーにお問い合わせください。

音声・字幕の変更

DVD ソフトによっては、ニヶ国語以上の複数の音声や字幕が記録されている場合があります。

このような場合は、拡張メニューを使って再生・表示する音声や字幕を 切り換えることができます。



キー説明

再生中の音声を切り換えるには、まず拡張メニューを呼び出します。取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの左隣りにある ピリオド(.)キーを 2 回押します。「拡張メニュー」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで 下キーを数回押すと「音声の設定」とアナウンスしますので、この状態で 停止・再開(5)キーを押します。字幕を変更する場合はその次の項目である「字幕の設定」を選んでください。この後、音声あるいは字幕の選択肢が表示され、それらを選択すると再生中の音声あるいは字幕が変更されます。

第 5 章 拡大読書機として使う

この章では、本機に画面を接続し、拡大読書機として使う方法を説明します。

5.1. 本機に画面を接続する

本機の背面には、『画面出力端子』がついています。

ここに画面を接続すると、本機が声で読み上げている内容を画面で拡大して見ることができます。



注意

ノートパソコンの画面を本機に接続することはできません。

パソコン用の画面を接続する

パソコン用の画面を接続する場合、お持ちのパソコンと画面をつないでいるケーブル(VGA ケーブルまたは HDMI ケーブル)を使って、本機と画面をそのまま接続することができます。

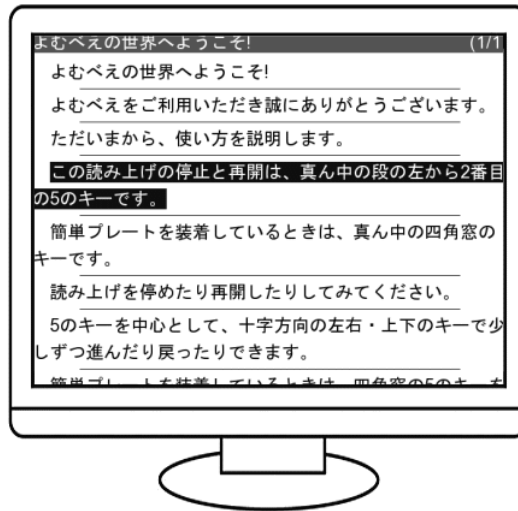


注意

本機本体の電源を入れる前に、必ず画面の電源を先に入れるようにしてください。

快速よむべえの電源を入れる

画面の電源を入れた後、本機の電源を入れます。起動して30秒ほどすると、本機の画面が表示されます。ここで本機を操作すると、現在喋っている内容が逐一画面に表示されます。



ワンポイント

本機の操作方法は、画面を接続していないときと同じです。

文字の大きさを変更する

本機に画面を接続している場合は、操作パネル左手前にある ゼロ(0)キー を使って、文字の大きさや書式を変更することができます。

キー説明

文字の大きさを変更するには、ゼロ(0)キー を押します。キーを1回押すごとに、画面の文字の大きさが「小」→「中」→「大」→「特大」の順に変化します。
また、キーを3回繰り返して押すと、画面の縦書き・横書きの書式が切り換わります。

文字の配色を変更する

本機では、文字の表示色として「白/黒」「黒/白」「青/黄」「黄/青」の4種類の組み合わせから選ぶことができます。

キー説明

文字の配色を変更するには、バックスペース(BS)キー を押しながら ゼロ(0)キー を押します。1回押すごとに、画面の配色の組み合わせが変化します。

ワンポイント

画面の状態を工場出荷時の状態に戻すには、アスタリスク(*)キー を2回押してください。音声と画面が標準の状態に戻ります。

5.2. カメラの画像を拡大表示する

本機に画面が接続されている場合は、『**拡大読書機モード**』を使うことができます。
拡大読書機モードでは、カメラで写した画像が拡大されて画面に表示されます。

キー説明

本機を拡大モードに切り換えるには、読み取り(Enter)キーの左隣にある ピリオド(.)キーを押します。

画面表示が「音声読書機モード」→「拡大読書機モード」→「USBモード」の順に変わりますので、「拡大読書機モード」の時点で 読み取り(Enter)キーを押します。

ワンポイント

拡大読書機モードの操作方法は、音声読書機モードとほとんど同じです。
(十字キーによる移動操作を除く)

拡大率を変更する

拡大読書機モードでは、現在カメラに写っている画像（ライブ画像）が画面全体に表示されます。
この後、特定の部分を拡大表示し、操作パネルの 十字キーを使って、拡大表示されている部分を上下左右に移動させることができます。

キー説明

画像が拡大されている状態で、操作パネルの 十字キーを押すと、拡大表示されている部分が上下左右に移動します。停止・再開(5)キーを押すと、画像の固定・解除を切り替えることができます。

画像の拡大率を変更するには、ゼロ(0)キーを押します。キーを1回押すごとに、画像の拡大率が「2倍」→「4倍」→「7倍」→「15倍」→「20倍」→「30倍」→「40倍」→「全体表示」の順に変化します。

注意

本機の拡大率は、19 インチ画面を想定しています。実際に表示される拡大率は、お使いの画面の大きさによって変わります。

画像の色・コントラストを変更する

拡大読書機モードでは、「文字の配色を変更する」(p.29)と同様の方法で 画像の配色を変更できます。拡大読書機モードは読み取った画像をすべて 白黒に変換し、読みやすい明るさに自動調整して表示しますが、手動で画像のコントラストを変更することもできます。



キー説明

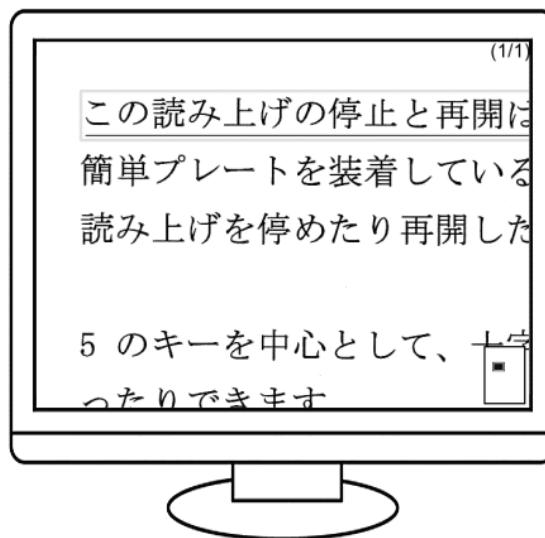
画像のコントラストを変更するには、バックスペース(BS)キーを押しながら ホーム(Home)キーまたは エンド(End)キーを押します。キーを 1 回押すごとに、画面のコントラストが「-4」→「-3」→「-2」→「-1」→「自動」→「+1」→「+2」→「+3」→「+4」の順に変化します。

通常、コントラストは「自動」に設定されています。コントラストの値が低くなると画像はより暗くなり、コントラストの値が高くなると画像はより明るくなります。

さらに、拡大読書機モードでは通常の配色に加えて「写真表示」状態が選択できます。これは、カメラの画像を 白黒にせずそのまま表示するもので、もとの色がそのまま拡大表示されます。

5.3. 読み取った画像を拡大表示する

拡大読書機モードでも 読み取り(Enter)キー を 2 回押すと 画像の読み取りおよび認識をおこなうことができます。この場合、読み取った静止画がページとして追加され、画面に表示されます。この状態で音声読書機モードに戻って読み上げることもできます。



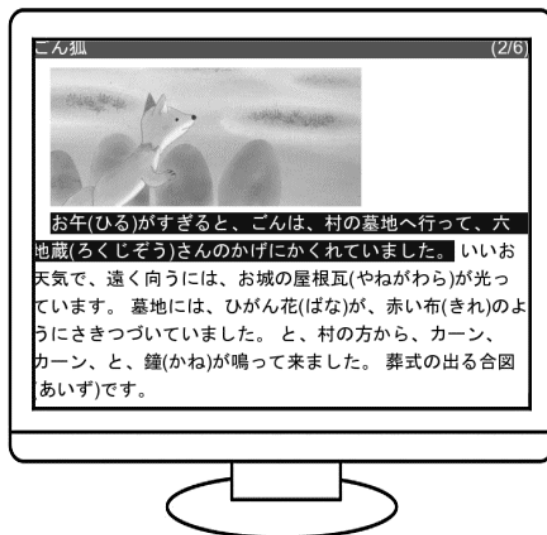
ワンポイント

音声読書機モードと同様、拡大読書機モードでも、ページアップ(PageUP)キーおよび ページダウン(PageDown)キーを使って 過去に読み取ったページの画像を見ることができます。最後に読み取ったページで ページダウン(PageDown)キーを押すと、ライブ画像を表示する状態に戻ります。

5.4. マルチメディアデージー図書を読む

『マルチメディアデージー図書』とは、通常の録音図書であるデージー図書に文字や画像の情報を加えた電子書籍の一種です。

本機に画面が接続されている場合、マルチメディアデージー図書を再生すると、現在の読み上げ部分に対応する文字や画像情報が画面に表示されます。



ワンポイント

マルチメディアデージー図書を再生するときの操作方法は、通常のデージー図書を再生するときの操作方法と同じです。

第6章 上級者向け機能

この章では、本機の上級者向け機能について説明します。

6.1. 連続読み取り

書籍などで、複数のページを一度にまとめて読み取りたい場合には『**連続読み取り**』という機能を使うと便利です。連続読み取りを開始すると、本機は指示があるまで 何度でも連続して読み取り動作を繰り返します。このあいだに書籍のページをめくってタイミングよくカメラの下に置くことで、複数のページを一度に読み取ることができます。

キー説明

連続読み取りをおこなうには、まず拡張メニューを開きます。取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの 左隣りにある ピリオド(.)キーを 2 回押します。

「**拡張メニュー**」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで 下キーを数回押すと「**連続読み取り**」とアナウンスしますので、この状態で 停止・再開(5)キーを押します。連続読み取りが開始されます。

連続読み取りを始めると、本機は終了操作が行われるまで読み取り動作を繰り返します。書籍の場合、ページをめくるごとに読み取りが行われます。連続読み取りを停止するには、取り消し(Tab)キーを押してください。

注意

連続読み取りでは、取り込まれた画像の変化が検出されるたびに 読み取りが行われます。書籍のページが実際に変化したかどうかまでは 検出されませんので、本を置く位置を変えたり、カメラを動かしたりしても 読み取りが行われることがあります。

ワンポイント

連続読み取りで正しくページを読み取るには、多少の慣れが必要です。連続読み取りで読み取ったページは後になるまで正しく読み取れたかがわからないので、もしあるページがうまく読み取れないと感じた場合は そのまま同じページをもう一度読み取らせて、あとで余分なページを削除してください。

6.2. クラウド認識

クラウド認識は、インターネット上の文字認識サービスを利用して読み取りを行います。このサービスを利用するには本機をインターネットに接続し、クラウド認識サービスのご契約を別途していただく必要があります。

キー説明

クラウド認識をおこなうには、取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キー を 2 回押します。

クラウド認識情報

クラウド認識の有効期限と利用可能な回数を報告します。

キー説明

クラウド認識情報を知るには、まず拡張メニューを開きます。取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの左隣りにある ピリオド(.)キー を 2 回押します。「拡張メニュー」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで 下キー を数回押すと「クラウド認識情報」とアナウンスしますので、この状態で 停止・再開(5)キー を押します。

「ライセンス期限」はクラウド認識サービスの有効期限です。「残り認識回数」はクラウド認識が利用できる回数で、クラウド認識を 1 回実行すると1回減ります。

注意

「残り認識回数」が残っていても、「ライセンス期限」を過ぎているとクラウド認識は利用できません。

6.3. 高度な文書管理

「文書の移動」(p.16)で触れたように、本機は各ページを「文書」というものに分けて保存しています。この節では、より進んだ文書管理のための機能を紹介します。

新しい文書の作成

本機は通常、前の読み取りから 1 時間以上が経過すると、新しい文書を作成しますが、一度に何種類もの違う印刷物を読み取る場合は、各印刷物ごとに別々の文書に分けることで、よりわかりやすく印刷物を管理することができます。



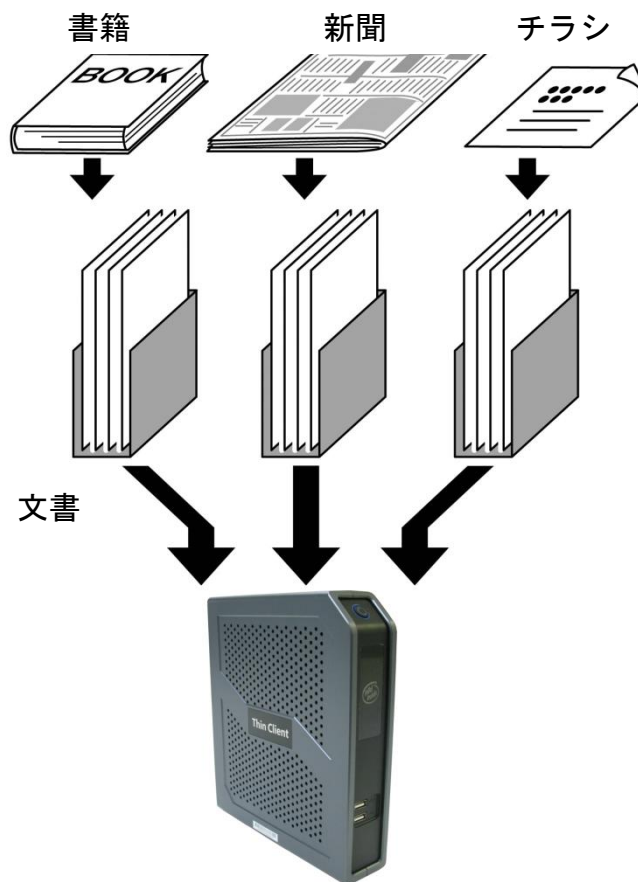
キー説明

新しい文書を作成するには、まず拡張メニューを開きます。取り消し(Tab)キーを押しながら、読み取り(Enter)キーの左隣りにあるピリオド(.)キーを2回押します。

「拡張メニュー」というアナウンスがあり、その後、上下のキーで項目が選択できる状態になります。ここで下キーを数回押すと「**新しい文書を作成**」とアナウンスしますので、この状態で停止・再開(5)キーを押します。新しい文書がつくれ、以後読み取ったページはこの文書に追加されます。

どのように文書を分けるかは、お客様の工夫次第です。代表的な例としては、一冊の本をひとつの文書としてまとめるという方法があります。

また、1日の新聞やチラシや郵便物をそれぞれ別の文書にするという方法もあります。



文書に名前をつける

本機が新しく文書を作成する場合、自動的に番号付きの文書名がつけられますが、別の名前をつけることもできます。これには読み取られた文書中で使われている文字を使います。

文書に名前をつけるには、二つの方法があります：

A. 簡単な方法

上下のキーでページ内の文を移動し、文書名にしたい文を読みあげたところで『名前をつける』操作を行います。

□ キー説明

「名前をつける」操作を実行するには、取り消し(Tab)キーを押しながら、スラッシュ(/)キーを2回押します。「**文書の名前を変更しました**」というアナウンスがあり、以後この文書はその名前と呼ばれます。

B. 高度な方法

以下に説明する『**文字選択**』を使った操作により、文書名にしたい文字列の範囲を指定してから「名前をつける」操作を実行します。

□ キー説明

文字選択をおこなうには、まず「2.4. 漢字の詳細読み」(p.14)で説明した漢字の詳細読みを使って、名前に使いたい最初の文字を読み上げます。ここで、取り消し(Tab)キーを押しながら、停止・再開(5)キーを押すと、「**文字選択、開始**」というアナウンスがあり、最初の文字が選択されます。

選択されている文字は通常よりも高い声で読み上げられます。

この後 取り消し(Tab)キーを押しながら、左キーまたは右キーを押すと、選択の範囲が前または後ろに1文字ずつ伸びていきます。

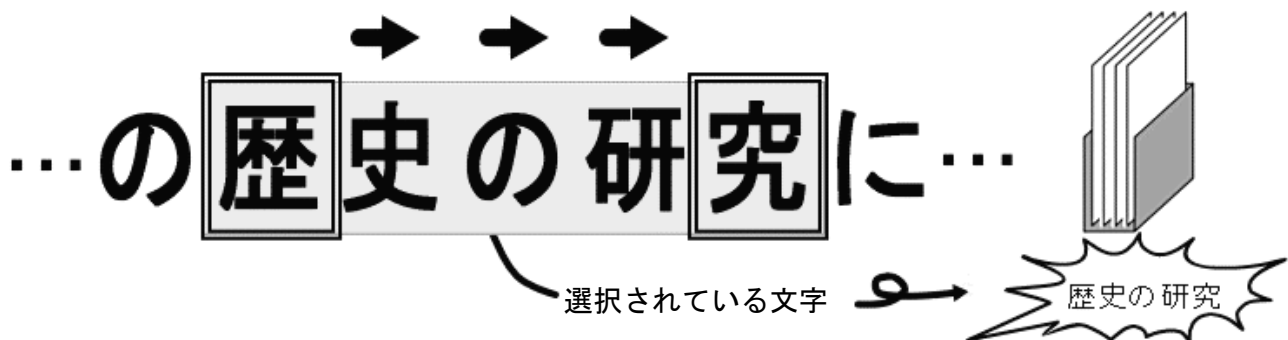
文字選択の状態を取り消すには、もう一度 取り消し(Tab)キーを押しながら 停止・再開(5)キーを押してください。

次に『**名前をつける**』操作を実行すると、文書の名前が変更されます。

1. 文字選択を開始

2. 詳細読みで移動

3. 文書名を変更



文書中の文字を検索する

ある文書中に何度も同じ単語や地名などが現れる場合、本機では、これらの文字を文書中から検索することができます。

文字を検索する場合は、「文書に名前をつける」(p.35)にある まず検索したい文字が現れている部分に移動し、『**文字選択**』の操作を使って、検索対象となる文字を選択してください。

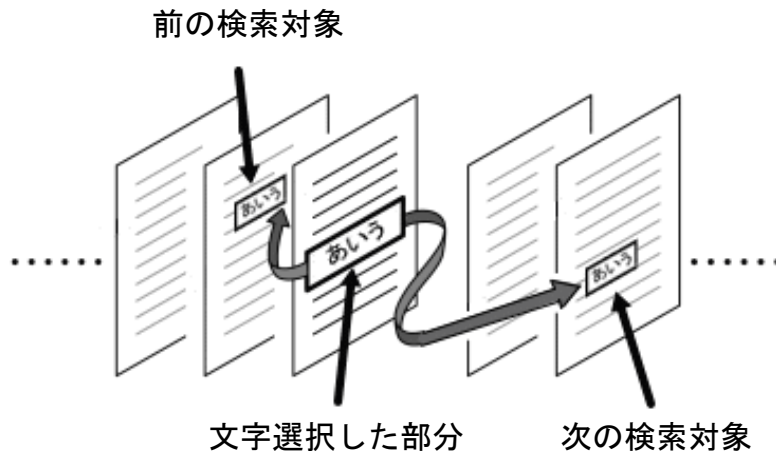
次に指定した文字が現れている部分にジャンプします。

□ キー説明

文書中の文字を検索するには、文字が選択されている状態で 取り消し(Tab)キーを押しながら、ホーム(Home)キーまたは エンド(End)キーを 2 回押します。

ホーム(Home)キーが押された場合、本機は現在の位置よりも前にある文字を検索し、エンド(End)キーが押された場合は、現在の位置よりも後にある文字を検索します。

指定された文字が見つかった場合、本機はその文字が現れている部分から読み上げを開始します。



☞ ワンポイント

文字が見つかった場合、対象のページにジャンプしたあとでも、検索対象の文字は引き続き選択された状態になっています。そのため、このまま 取り消し(Tab)キーを押しながら、ホーム(Home)キーまたは エンド(End)キーを 2 回押せば、同じ文字を引き続き検索することができます。

⚠ 注意

検索の対象となるのは、同一文書中にあるページだけです。

文書中の数字列を検索する

本機では、現在読み上げている文書のなかから、数字が連続して書かれている箇所を検出して読み上げることができます。たとえば、電話番号が書かれた印刷物を読み上げている場合、この機能を利用して、電話番号があらわれる箇所にすばやく到達することができます。

□ キー説明

文書中の数字列を検索するには、文字が選択されていない状態で 取り消し(Tab)キーを押しながら、ホーム(Home)キーまたは エンド(End)キーを 2 回押します。

ホーム(Home)キーが押された場合、本機は現在の位置よりも前にある数字列を検索し、エンド(End)キーが押された場合は、現在の位置よりも後にある数字列を検索します。

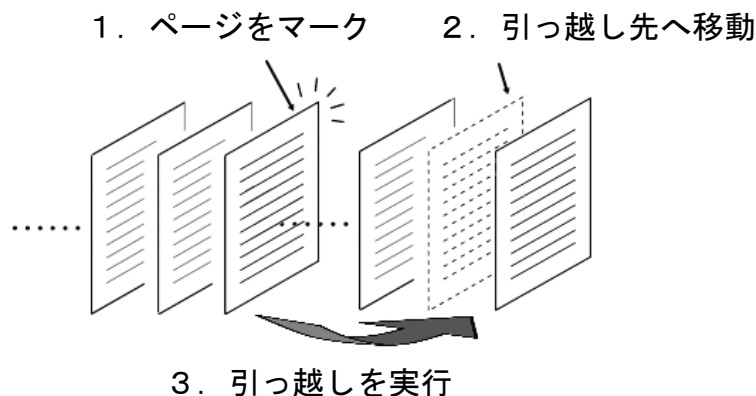
数字列が見つかった場合、本機はその数字列が書かれている部分を読み上げます。

⚠ 注意

検索の対象となるのは、同一文書中にあるページだけです。

ページの引っ越し

本機のページは、印刷物を読み取った順に追加されていきます。読み取ったあとでページの順序を変更したり、あるページを別の文書に移しかえたい場合は『ページの引っ越し』という操作をおこないます。



📄 キー説明

ページの引っ越しをおこなうには、まず移したいページに移動して、バックスペース(BS)キーを押しながら、停止・再開(5)キーを2回押します。「このページを引っ越し用にマークしました」というアナウンスがあり、現在のページ内容が記録されます。

つぎに、ページアップ(PageUP)キーあるいは ページダウン(PageDown)キーを使ってそのページを移す先に移動し、もう一度 バックスペース(BS)キーを押しながら、停止・再開(5)キーを2回押します。「ページの引っ越しが完了しました」というアナウンスがあり、ページの引っ越しが完了します。

たとえば、10 ページ目の内容を 5 ページ目に挿入したいときは、まず 10 ページ目に移動してその「ページを引っ越し用にマーク」し、つぎに 5 ページ目に移動してから「ページの引っ越しを実行」します。

👉 ワンポイント

ページを引っ越し用にマークしてから別の文書に移動し、そこで引っ越しを実行すると、そのページを別の文書に移すことができます。

6.4. 本機の設定を変更する

本機の細かなふるまいを変更するには、『設定変更メニュー』を使います。

キー説明

設定変更メニューを開くには、取り消し(Tab)キーを押しながら、アスタリスク(*)キーを2回押します。

「設定変更」というアナウンスがあり、その後、上キーと下キーで設定項目が選択できる状態になります。各設定項目ごとに、右キーと左キーで内容を変更できます。

すべての項目で変更が終わったら、読み取り(Enter)キーを押すと、変更が確定されます。メニューの中で 取り消し(Tab)キーを押すと、設定は変更されずに元の状態に戻ります。

ワンポイント

すべての設定を出荷時の状態に戻すには、一番下の「出荷時の設定に戻す」という項目を選んで 読み取り(Enter)キーを押してください。

設定変更メニューには、多くの項目が用意されています。設定項目の一覧については、「付録 C-1. 音声・拡大読書機モードの設定項目」(p.56) および「付録 C-2. USB モードの設定項目」(p.57) をご覧ください。この節では、いくつかの重要な項目にしぼって説明します。

クラウド認識

「クラウド認識」を「する」と選択した場合、読み取り(Enter)キーでクラウド認識が可能になり、従来の「読み取り」は取り消し(Tab)キーを押しながら読み取り(Enter)キーで可能になります。「クラウド認識」を「しない」と選択した場合はその逆になります。

入力画像形式

カメラから入力する画像の形式を指定します。画像の形式には「精密」「中間」および「高速」の3種類があり、用途に応じて使い分けることができます。

- 精密 ... もっとも画像の解像度が高い状態です。音声での読み上げをおこなう場合は、この形式が適しています。ただしライブ画像表示状態では反応が遅くなります。
- 中間 ... ライブ画像表示状態の反応が速くなるため、おもに拡大読書機として使う場合には、この形式が適しています。ただし文字認識の精度は下がるため、音声での読み上げをおこなう場合には おすすめしません。
- 高速 ... もっとも画像の解像度が低く、反応はとても速い状態です。拡大しながら文字を書くような用途に適していますが、音声での読み上げはほとんどできません。



注意

入力画像形式を「精密」以外に設定した場合、画面に表示される画像は所定の拡大率よりも小さくなります。

認識する言語

本機が文字認識する言語を指定します。「日本語」「中国語簡体字」「中国語繁体字」「ハングル」「英語」「日英混在」「中英混在(簡体字)」「中英混在(繁体字)」「韓英混在」の 9 種類の設定が選べます。この項目を「日本語」に設定した場合、本機は英字を正しく認識しますが、英文や英単語はすべてローマ字読みで発音します。

「英語」に設定した場合、本機は英文を正しく認識し、読み上げも英語の発音でおこないます。

一度読み取りをおこなってみて、本機が日本語文と英文が混じったような内容を読み上げた場合、認識する言語を「日英混在」に設定して、もう一度読み取りをおこなうと、認識精度が向上することがあります。

本機出荷時には、これは「日本語」に設定されています。



注意

認識する言語を「英語」に設定した場合、本機は日本語の文字を認識しませんのでご注意ください。また、認識する言語を「日英混在」「中英混在」などに設定した場合、通常よりも読み取り操作に時間がかかります。そのため、特に必要がある場合以外は、単一の言語を設定しておいたほうがよいでしょう。

ルビの読み上げ

印刷物によっては、読み方のむずかしい漢字にルビがついていることがあります。この項目はそのような文字を、本機がどのように読み上げるかを指定します。設定には「普通に読む」「詳細に読む」「ルビを無視する」の 3 種類があり、それぞれ以下のような違いがあります：

- 普通に読む ... ルビのついた文字をルビにしたがって読みます。
- 詳細に読む ... ルビにしたがった読みをするとともに、その単語が実際にどのような漢字で表現されているかを解説します。
- ルビを無視する ... ルビを無視し、漢字をそのまま読みあげます。

本機出荷時には、これは「普通に読む」に設定されています。

電源周波数

カメラから入力する画像のちらつき防止を指定します。お部屋の照明に蛍光灯をお使いの場合、蛍光灯の光は交流電源によって毎秒 50 回または 60 回の速さで点滅しています。

この設定はカメラが照明の影響を受けないようにするもので、お住まいの地域によって 50Hz あるいは 60Hz を設定してください。この設定が正しくない場合、ライブ画像表示画像がちらついたり、文字認識の精度が低下することがあります。

文書の自動作成

新しい文書を自動作成するときの間隔を指定します。本機は、工場出荷時には、前の読み取りから1時間以上が経過したときに自動的に新しい文書を作成するよう設定されていますがこの間隔は「1時間」「6時間」「1日」のいずれかから選べるようになっています。この設定を「しない」にすると文書は自動的に作成されません。なお、この間隔を「1日」に設定すると、経過時間にかかわらず本機は1日に1回だけ文書を自動的に作成します。

日付と時刻の変更

本機には、印刷物を読み取った時刻を記録するための時計が内蔵されています。この項目を変更するには、まず 読み取り(Enter)キーを押してください。つぎに現在の日付または時刻を、本機のテンキーを使って数字で入力します。年・月・日（または 時・分）の各項目を入力したあとに、読み取り(Enter)キーを押して変更を確定してください。

注意

本機のテンキーに書かれている数字は、通常の電話機の番号とは上下の位置が逆なので注意してください。本機では、左手前隅がゼロ(0)キーで、その上の列が 1,2,3、その上の列が 4,5,6 ...という順序になっています。

6.5. 快速よむべえに読み上げ辞書を追加する

読み上げ辞書の形式

読み上げ変更機能は、お客様が自分で作成した読み上げ辞書を組み込むことによって、お客様の指定に従って、読み上げを変更する機能です。辞書は、パソコンで作成します。使い慣れたエディタで csv ファイルを作成し、USB メモリーに保存します。

1. 辞書テキストの形式

漢字文字列とその読み仮名文字列を半角カンマで区切ります。読み仮名文字列は、全角のひらがなまたはカタカナで書きます。(例) 下関,げかん 上記の形式で、データを作成します。なお、エクセルで作成するときは、A 欄に漢字文字列、B 欄に読み仮名文字列を記述して、カンマ区切りの CSV ファイルで保存してください。

2. ファイル名

作成した辞書を、拡張子 csv で保存します。(例) keiketsu.csv

読み上げ辞書の登録手順

1. USB メモリーに保存

作成した csv ファイルを、USB メモリーに保存します。

2. USB モードで再生

USB メモリーをよむべえにセットし、USB モードで作成した csv ファイルを開きます。

3. 辞書内容の読み上げ

辞書内容を読み上げさせ、登録の必要のある単語と、もともと読めていた単語を区別します。左側の漢字文字列と、右側のカナ文字列の読みが同じ場合は、もともと読めていたと判断できます。もともと読めていた単語は、登録する必要はありませんので、記録しておいてください。

4. 辞書内容の整理

USB メモリーをよむべえから取り外し、パソコンで登録の必要のない単語を削除します。よむべえは、もともと自然なアクセントで読み上げていますので、読めている単語を登録すると、アクセントが不自然になることがあります。また、登録語数が多くなればなるほど、動作速度が遅くなります。1000 語ぐらいまでは問題ありませんが、登録する必要のない単語を登録しないように気遣ってください。

5. 再び USB モードで確認

整理を終えた辞書ファイルを、再びよむべえの USB モードで読み上げさせてみます。

6. 辞書を登録

辞書ファイルを USB モードで開いている状態で拡張メニューを実行します。すると、拡張メニューの中に「読み上げ辞書として登録」という項目が現れます。ここで読み取りキーを押すと、現在開いている読み上げ辞書が登録されます。辞書ファイルが大きい場合は、登録に多少時間がかかります。登録完了のメッセージが出るまでお待ちください。

登録後は、登録された辞書が有効になります。

なお、上記の操作で、複数の目的が異なる読み上げ辞書を登録することができます。

読み上げ辞書の管理

1. 有効 / 無効の切り替え

拡張メニューの中に、「読み上げ辞書の管理」という項目があります。停止・再開(5)キー でこれを実行すると、上下のキーで辞書の種類を選択し、左右のキーでその辞書を有効にするか無効にするかの選択ができます。左右のキーで「有効」または「無効」にした後、読み取り(Enter)キー を押すと、「読み上げ辞書を変更しました」というメッセージで設定の変更をお知らせします。辞書を登録したままでも、この辞書管理機能で、特定の辞書を無効にすることができます。

読み上げる印刷物の種類に応じて、必要な辞書だけを有効にして読み上げを行うことにより、同じ単語の読み方を印刷物のテーマに合わせて切り替えて読ませることができます。

2. 登録の削除

「読み上げ辞書の管理」で選択している辞書を登録から削除することができます。削除操作は、右上の バックスペース(BS)キー (補助キー)を押しながら ページアップ(PageUP)キー を一度押します。しばらくすると、「本当に削除しますか?」というメッセージが出ますので、読み取りキーを押すことにより、削除されます。なお、削除完了のメッセージが出るまで、しばらく時間がかかることがあります。

第7章 故障かな? と思ったら

この章では、本機に関連する症状の原因と対策を挙げています。本機に故障が発生したと思われる場合は、まず以下の項目をご確認ください。それでも問題が解決しない場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

? 本機の電源が入らない

本機の電源が入らない場合は、以下の原因が考えられます。

原因	電源コードが正しく接続されていない。
対策	電源コードの終端を本機本体にしっかりと押しこみ、コードがコンセントに挿さっていることを確認します。

? 内蔵スピーカーから音が出ない

本機の電源は入っているが、内蔵スピーカーから音が出ない場合には、以下の原因が考えられます。

原因	スピーカーの音量が小さくなっている。
対策	バックスペース(BS)キー を押しながら マイナス(-)キーを何回か押して、音量を調整します。

? 本機が喋らない

本機は起動時に短い音楽を鳴らします。本機の音楽が鳴ったにもかかわらず、音声が出ない場合には、以下の原因が考えられます。

原因	本機の USB モードのガイド音量設定が「小」になっている。
対策	本機で USB モードに変更し、設定変更メニューで「ガイド音量」の項目を確認します。

? 画面が映らない

本機に画面を接続しても画面がまったく映らなかったり、読み上げ内容が正しく表示されない場合には、以下のことを確認してください。

原因	画面が正しく接続されていない。
対策	画面と本機が正しくケーブルで接続されているかどうかを確認します。

原因	本機の電源投入時に画面の電源が入っていない。
対策	画面の電源を確認します。すでに本機を起動している場合は、いったん電源を切り、ふたたび電源を入れてください。

原因	画面の入力切り換え・表示設定がおかしい。
対策	画面の入力切り換え・表示設定を確認します。詳しくは、お使いの画面の取扱説明書を参照してください。

? 読み取りに失敗する

「読み取りに失敗しました」というアナウンスがあった場合は、以下の原因が考えられます。

原因	カメラが正常に接続されていない。
対策	一体モデルの場合、電源を入れなおしてください。改善されない場合、快速よむべえの電源を入れたまま、カメラに接続されたケーブルを抜き、5秒ほど待ってから、もう一度差し込んでください。この後、ふたたび読み取りを実行すると正常に認識できるようになります。

? 文字が読み取れない

読み取りを実行したさいに「文字が読み取れません」というアナウンスがあった場合は、以下の原因が考えられます。

原因	印刷物が白紙であった。
対策	用紙を裏返して、もう一度読み取りを行ってください。

原因	印刷物に光が十分に当たっていない。
対策	本機は、カメラを利用して読み取りをおこなうため、明るい場所で本機をご使用ください。また、カメラの照明もお試しくささい。

？ 読み取りの精度が悪い

印刷物がうまく読み取れない場合、以下の原因が考えられます。

原因	印刷物がカメラの撮影位置からずれている。
対策	原稿ガイドが付属する製品の場合は、印刷物を付属の原稿ガイドに合わせます。一体モデルの場合や、ガイドに合わせることが難しい印刷物は、なるべくカメラの真下に置いてください。

原因	印刷物に影が落ちている。
対策	人体や本機の影が印刷物に落ちていると認識精度が低下します。本機は、照明の真下を避けて設置してください。また、カメラの照明もお試しくささい。

原因	印刷物が光を反射している。
対策	つやのある印刷物の場合は、印刷物自体が照明の光を反射するため、精度が低下する場合があります。このような場合はカメラの照明をオフにし、なるべく光が真上から当たらないような環境で撮影してください。

原因	印刷物が浮き上がっているか、歪んでいる。
対策	見開きにした本など、印刷面が平らになっていない印刷物は うまく認識できない場合があります。このような場合は 印刷物を手でなるべく平らにした状態で読み取りをおこなってください。

? うまく読み取れない時の対処法

起動直後に読み取りや画像表示がうまくいかない時は、以下の方法をお試しください。

原因	以下のメッセージが表示される: <ul style="list-style-type: none">・ <u>遮光</u> 「カメラが遮られています。カメラが正しくセットされていることを確認してください」・ <u>文字なし</u> 「文字が読み取れません。印刷物が正しくセットされていることを確認してください」・ <u>読み取り失敗</u> 「読み取りに失敗しました。カメラの接続を確認してください」
対策	1~2回、読み取りを実行すると正常に認識できるようになります。 改善されない場合、快速よむべえの電源を入れたまま、カメラに接続されたケーブルを抜き、5秒ほど待ってから、もう一度差し込んでください。この後、ふたたび読み取りを実行すると正常に認識できるようになります。

? 本機の電源が切れない

本機では、電源ボタンを押してから実際に電源が切れるまで しばらく時間がかかる場合があります。これは本機が終了処理をしている 最中ですので、そのまま電源が切れるまでお待ちください。



注意

本機の動作中に電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

付録 A. キー操作一覧

付録 A-1. 音声読書機モードのキー操作

以下に本機の音声読書機モードにおけるキー操作の一覧を示します。

キーの名称については、別表を参照してください。

表. 音声読書機モードのキー操作

読み取り	読み取り(Enter)キー × 2回
クラウド認識	取り消し(Tab)キー + 読み取り(Enter)キー × 2回
読み上げを停止・再開	停止・再開(5)キー
前の文を読み上げ	上キー
次の文を読み上げ	下キー
前の文節を読み上げ	左キー
次の文節を読み上げ	右キー
前の段落を読み上げ	取り消し(Tab)キー + 上キー
次の段落を読み上げ	取り消し(Tab)キー + 下キー
前の1文字を詳細読み	取り消し(Tab)キー + 左キー
次の1文字を詳細読み	取り消し(Tab)キー + 右キー
上の領域を読み上げ	バックスペース(BS)キー + 上キー
下の領域を読み上げ	バックスペース(BS)キー + 下キー
左の領域を読み上げ	バックスペース(BS)キー + 左キー
右の領域を読み上げ	バックスペース(BS)キー + 右キー
ページの先頭・前のページに移動	ページアップ(PageUP)キー
次のページに移動	ページダウン(PageDown)キー
しおりを登録・削除	スラッシュ(/)キー × 2回
前のしおりへ移動	ホーム(Home)キー × 2回
次のしおりへ移動	エンド(End)キー × 2回
前の数字列を検索	取り消し(Tab)キー + ホーム(Home)キー × 2回

次の数字列を検索	取り消し(Tab)キー + エンド(End)キー × 2 回
前の文字列を検索	取り消し(Tab)キー + ホーム(Home)キー × 2 回 (文字列を選択後)
次の文字列を検索	取り消し(Tab)キー + エンド(End)キー × 2 回 (文字列を選択後)
文字選択開始	取り消し(Tab)キー + 停止・再開(5)キー
現在位置確認	プラス(+)キー
ページ補正方法を切り換え	バックスペース(BS)キー+プラス(+)キー(決定は 読み取り(Enter)キー)
ページ削除	バックスペース(BS)キー + ページアップ(PageUP)キー × 2 回
ゴミ箱の内容を確認	バックスペース(BS)キー + ページダウン(PageDown)キー × 2 回
ゴミ箱のページを元に戻す	バックスペース(BS)キー + ページアップ(PageUP)キー × 2 回 (ゴミ箱の中で)
ページの引っ越しを指定・実行	バックスペース(BS)キー + 停止・再開(5)キー × 2 回
文書一覧メニューを表示(※1)	プラス(+)キー(長押し)
前の文書へ移動	取り消し(Tab)キー + ページアップ(PageUP)キー × 2 回
次の文書へ移動	取り消し(Tab)キー + ページダウン(PageDown)キー × 2 回
文書名をつける	取り消し(Tab)キー + スラッシュ(/)キー × 2 回 (文字列を選択後)
文書情報を確認	取り消し(Tab)キー + プラス(+)キー
読み上げ速度を速く	マイナス(-)キー
読み上げ速度を遅く	取り消し(Tab)キー + マイナス(-)キー
読み上げ音量を上げる	バックスペース(BS)キー + マイナス(-)キー
読み上げ音量を下げる	取り消し(Tab)キー + バックスペース(BS)キー + マイナス(-)キー
標準の状態に戻す	アスタリスク(*)キー × 2 回
設定変更メニューを表示(※2)	取り消し(Tab)キー + アスタリスク(*)キー × 2 回
拡張メニューを表示(※2)	取り消し(Tab)キー + ピリオド(.)キー × 2 回
書式を切り換え	ゼロ(0)キー
表示色を切り換え	バックスペース(BS)キー + ゼロ(0)キー
モードを切り換え	ピリオド(.)キー (決定は 読み取り(Enter)キー)

※1. 文書一覧メニューでは、以下のキー操作を使うことができます。文書一覧メニューの使い方については「3.5. 特定の文書・ページに移動する」(p.20)を参照してください。

表. 文書一覧メニューのキー操作

1 項目前へ	上キー
1 項目後へ	下キー
10 項目前へ	ページアップ(PageUP)キー
10 項目後へ	ページダウン(PageDown)キー
最初の文書へ	スラッシュ(/)キー
最後の文書へ	アスタリスク(*)キー
選択した文書に移動	停止・再開(5)キー
文書名を詳細読み	左キーまたは右キー
一覧順序の変更メニューを表示	取り消し(Tab)キー+ピリオド(.)キー × 2 回
しおりのついた文書を選択	ホーム(Home)キー または エンド(End)キー × 2 回

※2. 設定変更メニューおよび拡張メニューの一部の操作では、ページ番号や日付・時刻などの情報を数字で入力することがあります。この場合、本来本機の移動操作に使うキーを数字キーとして使用します。ここでは以下のキー操作が有効です。

表. 数値入力時のキー操作

数字を入力する	0 から 9 までの数字キー
入力を確定する	読み取り(Enter)キー
すべての入力を取り消す	取り消し(Tab)キー
直前に入力した 1 文字を削除する	バックスペース(BS)キー
「先頭の位置」に相当する値を入力する	スラッシュ(/)キー
「最後の位置」に相当する値を入力する	アスタリスク(*)キー

付録 A-2. 拡大読書機モードのキー操作

本機の拡大読書機モードでは、以下のようなキー操作を使うことができます。これ以外の操作は音声読書機モードと共通です。

拡大読書機モードの使い方については「第 5 章 拡大読書機として使う」(p.28)を参照してください。

表. 拡大読書機モードのキー操作

表示位置を上へ移動	上キー(拡大時)
表示位置を下へ移動	下キー(拡大時)
表示位置を左へ移動	左キー(拡大時)
表示位置を右へ移動	右キー(拡大時)
拡大率を切り換え(拡大)	ゼロ(0)キー
拡大率を切り換え(縮小)	取り消し(Tab)キー + ゼロ(0)キー
コントラストを下げる	バックスペース(BS)キー + ホーム(Home)キー
コントラストを上げる	バックスペース(BS)キー + エンド(End)キー
画像を 90° 回転(※3)	取り消し(Tab)キー + 停止・再開(5)キー × 2 回
画像を固定・解除	停止・再開(5)キー(ライブ画像表示時)

※3.ライブ画像表示の状態では画像の回転はできません。

付録 A-3. USB モードのキー操作

以下に本機の USB モードにおけるキー操作の一覧を示します。USB モードの使い方については「第 4 章 USB メモリまたは CD の内容を聴く」(p.22) を参照してください。

なお、USB モードでも、読み取り(Enter)キーを 2 回押すと本機は 音声・拡大読書機モードに戻り、印刷物の読み取りをおこないます。

表. デイジー図書(ファイル)再生時のキー操作

再生停止・再開	停止・再開(5)キー
少し戻る・巻き戻し	左キー
少し進む・早送り	右キー
前の曲・見出し・メニュー項目に移動	上キー
次の曲・見出し・メニュー項目に移動	下キー
前の段落を読み上げ(※4)	取り消し(Tab)キー + 上キー
次の段落を読み上げ(※4)	取り消し(Tab)キー + 下キー
前の 1 文字を詳細読み	取り消し(Tab)キー + 左キー
次の 1 文字を詳細読み	取り消し(Tab)キー + 右キー
ページの先頭・前のページに移動	ページアップ(PageUP)キー
次のページに移動	ページダウン(PageDown)キー
しおりを登録・削除	スラッシュ(/)キー × 2 回
前のしおりへ移動	ホーム(Home)キー × 2 回
次のしおりへ移動	エンド(End)キー × 2 回
現在位置確認	プラス(+)キー
図書(ファイル)一覧に戻る(※5)	プラス(+)キー (長押し)
図書(ファイル)情報	取り消し(Tab)キー + プラス(+)キー
一定時間だけ戻る	バックスペース(BS)キー + 上キー
一定時間だけ進む	バックスペース(BS)キー + 下キー
再生速度を速く	マイナス(-)キー
再生速度を遅く	取り消し(Tab)キー + マイナス(-)キー

読上げ音量を上げる	バックスペース(BS)キー + マイナス(-)キー
読上げ音量を下げる	取り消し(Tab)キー + バックスペース(BS)キー + マイナス(-)キー
標準の状態に戻す	アスタリスク(*)キー × 2 回
設定変更メニュー表示	取り消し(Tab)キー + アスタリスク(*)キー × 2 回
拡張メニュー表示	取り消し(Tab)キー + ピリオド(.)キー × 2 回
書式の切り換え	ゼロ(0)キー
表示色の切り換え	バックスペース(BS)キー + ゼロ(0)キー
モード切り換え	ピリオド(.)キー
読み取り	読み取り(Enter)キー × 2 回
クラウド認識	取り消し(Tab)キー + 読み取り(Enter)キー × 2 回

※4. デイジー図書（ファイル）の状態では、前のレベル 1 見出し、あるいは 次のレベル 1 見出しに移動します。

※5. デイジー図書（ファイル）一覧の状態では、以下のキー操作を使うことができます。

表. デイジー図書（ファイル）一覧時のキー操作

1 項目前へ	上キー
1 項目後へ	下キー
10 項目前へ	ページアップ(PageUP)キー
10 項目後へ	ページダウン(PageDown)キー
ファイルまたは図書を再生	停止・再開(5)キー
ファイル名の詳細読み	左キーまたは右キー

付録 B. 拡張メニュー操作一覧

本機では、あまり頻繁におこなわない操作は 拡張メニューという操作の中にまとめられています。拡張メニューの項目は、音声・拡大読書機モードの場合と USB モードの場合とで変わります。

付録 B-1. 音声・拡大読書機モードの拡張メニュー

表. 音声・拡大読書機モードの拡張メニュー操作

快速よむべえ説明書	本機のオンラインマニュアルを表示します。
連続読み取り	連続読み取りを開始します。連続読み取り機能の使い方については、「6.1. 連続読み取り」(p.33)を参照してください。
ページ指定移動	番号で指定されたページに移動します。詳しくは「3.5.特定の文書・ページに移動する」(p.20)を参照してください。
新しい文書の作成	新しい文書を作成します。 詳しくは、「新しい文書の作成」(p.35)を参照してください。
文書の保存	文書の内容を USB メモリに保存します。詳しくは、「3.3. 読み取った文書をパソコンで使用する」(p.18)を参照してください。
しおりの全削除	確認後、現在の文書についているしおりをすべて削除します。
文書の削除	確認後、現在の文書の内容をすべて削除します。
USB バックアップ	本機に記録されている文書の内容をすべて USB メモリにバックアップします。
USB 復元	「USB バックアップ」によって保存された情報を使って本機の文書を復元します。
読み取り精度確認	付属の「読み取り精度確認シート」に書かれている文字と本体に内蔵されている文字を比較して、読み取り精度を確認します。
クラウド認識情報	クラウド認識に関する情報を表示します。詳しくは「クラウド認識情報」(p.34)を参照してください
読み上げ辞書管理	辞書管理メニューを開きます。詳しくは、「6.5.快速よむべえに読み上げ辞書を追加する」(p.42)を参照してください。
すべての文書の消去	本機内部の文書をすべて削除し、設定の初期化をおこないます。(※6)

 **注意**

「USB バックアップ」および「USB 復元」では、各ページにつけられたしおりの情報は保存されません。また、これらの操作は本機内部に記録されているページ数が多い場合には時間がかかります。

※6. 安全のため、この操作は通常の拡張メニューには表示されません。

この項目を表示するには、バックスペース(BS)キーと取り消し(Tab)キーを両方押しながら拡張メニューを開く必要があります。また、操作の実行に「8、2、4、6」の順でキーを押す必要があります。

付録 B-2. USB モードの拡張メニュー

表. USB モードの拡張メニュー

ディスク情報	現在、挿入されている USB メモリの情報を報告します。
ページ指定移動	番号で指定されたページに移動します(テキストファイルの場合)。 (※7)
時間指定移動	数字で指定された時刻に移動します(デジタール図書、MP3 ファイルの場合)。(※7)
しおりの全削除	確認後、現在の文書についているしおりをすべて削除します。

※7. これらの操作は現在再生しているメディアの種類によって変わります。 ページのない MP3 などのオーディオファイルでは、「ページ指定移動」のかわりに「時間指定移動」の機能が使えます。

ここではページ番号のかわりに分単位での時間を入力します。

付録 C. 設定項目一覧

以下に本機のふるまいを変更する設定項目の一覧を示します。詳しくは「6.3. 本機の設定を変更する」(p.39) を参照してください。

付録 C-1. 音声・拡大読書機モードの設定項目

表. 音声・拡大読書機モードの設定項目

音声	読み上げとガイドで使う合成音声の種類を指定します。 「Sayaka」「Haruka」のいずれかを指定します。
認識する文書の言語	認識する文書の言語として、「日本語」「中国語簡体」「中国語繁体」「ハンゲル」「英語」「日英混在」「中英混在(簡体)」「中英混在(繁体)」「韓英混在」のいずれかを指定します。
クラウド認識	読み取りキーを使ってクラウド認識するかどうかを指定します。「する」「しない」のいずれかを指定します。
入力画像形式	カメラから入力する画像の形式を指定します。 「精密」「中間」「高速」のいずれかを指定します。 詳しくは「入力画像形式」(p.39) を参照してください。
ページ補正	新しく読み取ったページに対する既定の補正方法として、「一般的な印刷物」「書籍」「一段組み」「複雑な段組み」「表形式」「補正しない」のいずれかを指定します。 詳しくは、「2.3. ページ補正をおこなう」(p.13)を参照してください。
ページ回転	認識時に読み取った画像を回転させる角度を指定します。 「自動」「回転なし」「90度」「180度」「270度」のいずれかを指定します。
ルビの読み上げ	ルビの読み上げ方式として、「普通に読む」「詳細に読む」「ルビを無視する」のいずれかを指定します。
ライブ画像への移行	拡大読書機モード開始時に、自動的にライブ画像に移行するかどうかを指定します。「移行する」「移行しない」のいずれかを指定します。
電源周波数	カメラから入力する画像のちらつき防止を指定します。 「50Hz」「60Hz」のいずれかを指定します。 詳しくは「電源周波数」(p.40) を参照してください。
読み上げ時の効果音	読み上げ時に効果音を入れるかどうかを指定します。 「効果音あり」「効果音なし」のいずれかを指定します。

空のページを無視	読み取り時に文字が認識できなかったページを自動的に除去するかどうかを指定します。 「無視する」「無視しない」のいずれかを指定します。
新規文書の自動作成	新しい文書を自動作成する間隔を 前の読み取りからの経過時間で指定します。「1 時間後」「6 時間後」「1 日後」「自動作成しない」のいずれかを指定します。
文書の保存期間	読み取った文書と画像の保存期間を指定します。「保存なし」「文章のみ保存」「画像を 1 ヶ月間保存」「画像を 6 ヶ月間保存」「画像を 1 年間保存」「すべて保存」のいずれかを指定します。
起動時のモード	本機が起動した時のモードとして、「音声読書機モード」または「拡大読書機モード」のいずれかを 指定します。
自動電源オフ	本機は、なにも操作しない状態で 指定した時間が経過すると、自動的に電源を切ります。 「なし」「1 時間」のいずれかを指定します。
現在の日付	本機に記憶されている現在の日付を変更します。 詳しくは「日付と時刻の変更」(P.40)を参照してください。
現在の時刻	本機に記憶されている現在の時刻を変更します。 詳しくは「日付と時刻の変更」(P.40)を参照してください。
出荷時の設定に戻す	すべての設定を出荷時の状態に戻します。

注意

既定のページ補正方法を「複雑な段組み」に切り換えた場合、読み取りの完了から読み上げまでに時間がかかることがあります。

付録 C-2. USB モードの設定項目

表. USB モードの設定項目

音声	再生とガイドで使う合成音声の種類を指定します。 「Sayaka」「Haruka」のいずれかを指定します。
読み上げ言語	テキストファイルを読み上げる際の言語を指定します。 「日本語」「英語」「中国語簡体」「中国語繁体」「ハングル」のいずれかを指定します。
ファイル一覧の方式	ファイル一覧の方式として、「一度に表示」あるいは「フォルダごとに表示」のいずれかを指定します。

ファイル一覧の順序	ファイル一覧の順序として「種類順」「名前順」「日付順」のいずれかを指定します。
再生時の効果音	再生時に効果音を入れるかどうかを指定します。 「効果音あり」「効果音なし」のいずれかを指定します。
PDF 認識	PDF ファイルの再生時に強制的に OCR (文字認識) 処理をおこなうかどうかを指定します。 「つねに認識」「必要に応じて認識」のいずれかを指定します。

付録 D. 快速よむべえでサポートするファイル形式一覧

本機の USB モードでは、以下のファイル形式を再生することができます。

表. USB モードでサポートされているファイル形式

テキストファイル(.txt)	Word ファイル(.doc, .docx)	PDF ファイル(.pdf)
Excel ファイル(.xls, .xlsx)	HTML ファイル(.htm, .html)	リッチテキストファイル(.rtf)
MP3 ファイル(.mp3)	MIDI ファイル(.mid)	Windows Media ファイル(.wma)
CSV ファイル(.csv)	その他の音声ファイル (.wav, .ogg, .avi)	画像ファイル各種(.bmp, .jpg, .gif)
BES ファイル(.bes)	EPUB ファイル(.epub)	

付録 E. 快速よむべえでサポートする携帯型デジプレーヤー

本機では、携帯型デジプレーヤーとして以下の機種をサポートしています。

- プレクストークリンクポケット PTP1/LINK

索引

英数字			な行		
	CSV 形式	19		名前をつける	35
	HTML 形式	19		認識する言語	40
	MP3 形式	19	は行		
	USB ポート	18		表形式	13
	USB メモリ	18		複雑な段組み	13
	USB モード	22		文書	16
	VGA ケーブル	28		文書の移動	16
あ行				文書の削除	54
	一般的な印刷物	13		文書の保存	18
	一段組み	14		文書の保存形式	19
	エクセル形式	19		ページ	20
	音声読書機モード	22		ページ補正	13
	音量	7		ページの移動	15
か行				ページの削除	17
	拡大読書機モード	28		ページの引越し	38
	拡張メニュー	18,21,54	ま行		
	画面出力端子	28		マルチメディアデジータ図書	32
	クラウド認識	34		文字選択	35
さ行			や行		
	しおり	19		読み取り	9
	書籍	12	ら行		
	詳細読み	14		ルビの読み上げ	41
	設定変更メニュー	39		連続読み取り	33
	操作パネル	11			
た行					
	デジータ形式	19			
	デジータ図書	24			
	テキスト形式	19			
	電源ボタン	7			
	動作モード	22			

技術情報

認識エンジンにはメディアドライブの日本語 OCR ライブラリーを使用しています。
音声合成エンジンには、マイクロソフト社の音声合成エンジンと HOYA 株式会社の VoiceText Sayaka を使用しています。

MP3 録音技術およびソフトウェアは Fraunhofer Gesellschaft zur Förderung der Angewandten Forschung 社によって提供されたものです。

本取扱説明書で記載する社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。

本機で利用しているフリーソフトウェアについて

本機を構成するソフトウェアの一部には、フリーソフトウェアの Pygame を利用しています。

このソフトウェアは LGPL(GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書)によって配布されています。

詳しくは、Pygame のホームページ <http://www.pygame.org/> をご覧ください。

また、これとは別に、Glyph & Cog, LLC 社によって開発されたフリーソフトウェアの XPDF を使用しています。このソフトウェアは GPL(GNU 一般公衆利用許諾契約書)によって配布されています。詳しくは Glyph & Cog, LLC 社のホームページ <http://www.foolabs.com/xPDF/> をご覧ください。

LGPL(GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書)および GPL(GNU 一般公衆利用許諾契約書)の詳しくは、フリーソフトウェア財団のホームページ <http://www.fsf.org/licensing/> をご覧ください。

これら、本機の技術基盤を作ってくださった皆様及び各社の皆様に、アメディアスタッフ一同心より感謝申し上げます。

以下、英語で著作権表示致します。

--

Python

Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010,
2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016 Python Software Foundation; All Rights
Reserved

--

Pygame

Version 1.9.1release Python Game Development
Originally by Pete Shinners, now an open source community project.

--

cx_Freeze

Copyright (c) 2007-2017, Anthony Tuininga.
Copyright (c) 2001-2006, Computronix (Canada) Ltd., Edmonton, Alberta, Canada.
All rights reserved.

--

Leptonica

Copyright (C) 2001 Leptonica. All rights reserved.

--

Xiph OpenCodecs

Copyright (c) 1994-2004 Xiph.org Foundation

--

Xpdf

The Xpdf software and documentation are
copyright 1996-2011 Glyph & Cog, LLC.

The PDF data structures, operators, and specification are
copyright 1985-2006 Adobe Systems Inc.

--

別表. キー名称

Tab 取り消しキー	/ スラッシュキー	* アスタリスクキー	BS バックスペースキー
7 ホームキー	8 上キー	9 ページアップキー	- マイナスキー
4 左キー	5 停止・再開キー	6 右キー	+ プラスキー
1 エンドキー	2 下キー	3 ページダウンキー	Enter 読み取りキー
0 ゼロキー	00	. ピリオドキー	

読み取りキー	[Enter]
停止・再開キー	[5]
十字キー（上下左右キー）	[8] [2] [4] [6]
マイナスキー	[-]
取り消しキー	[Tab]
バックスペースキー	[BS]
ピリオドキー	[.]
ページ移動キー（ページアップキー・ページダウンキー）	[9] [3]
ジャンプキー（ホームキー・エンドキー）	[7] [1]
ゼロキー	[0]
スラッシュキー	[/]
アスタリスクキー	[*]

快速よむべえ 取扱説明書

2022年3月版

株式会社アメディア

〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 1-15-6 第10秋山ビル 1階

電話. 03-6915-8597 FAX. 03-3994-7177

<https://www.amedia.co.jp/>

快速よむべえホームページ: <https://www.amedia.co.jp/product/visual/yk/index.html>

AMEDIA